

山形県立博物館収蔵資料・動物データベースの更新作業

羽角 正人*

Some works on the renewal of the database of animal specimens and materials
deposited in the Yamagata Prefectural Museum, Japan

HASUMI, Masato

1 初めに

2019年4月7日の私信で、国立科学博物館の細矢剛さんから、羽角・本間(2019)の「初めに」に誤解を招きやすい表現があるとの指摘があった。「国立科学博物館が主催する S-Net/GBIF に登録する」という表現で、S-Net は科博が運営しているが、GBIF は日本政府として参加している国際機構のため両者は別物との指摘であった(S-Net: Science Museum Network; GBIF: Global Biodiversity Information Facility)。このことは私も理解していて、本来なら S-Net とだけ書いたかったのだが、私が勤務する以前から山形県立博物館の職員は GBIF とだけ言っていて、公式書類にも GBIF (または、G-bif) とだけ書いてあったので、両者を並列せざるを得ないという事情があった。S-Net は国内でだけ利用され、最終目的の GBIF への登録のための通過点的データベース(DB)という理解が正しいとのことであった。

山形県立博物館に対する 2019 年度の S-Net への登録資料数の割り当ては、12,000 点である(動物部門 10,000 点、植物部門 2,000 点)。私は、前の担当者が登録から外した昆虫綱チョウ目の未登録資料 2,390 点を検討し、最新の学名に変更すれば登録可能であることを見出した。前回の報告では、全体の記述の多くを軟体動物門の腹足綱に充てた(羽角・本間, 2019)。今回は、二枚貝綱、頭足綱/掘足綱/多板綱、

昆虫綱チョウ目に焦点を当てて記述する。

本稿の目的や方法論に関しては、羽角・本間(2019)に詳しい。「山形県立博物館収蔵資料データベース」を「収蔵資料 DB」と略す。属名や種小名の一部に全角入力されている学名が少なくなかったが、文章を短くするため、このことには言及しなかった。

2 材料と方法

二枚貝綱(資料数 1,707 点)の多くは Biological Information System for Marine Life (BISMaL)で検索し、和名が出て来ないケースでは学名で検索をおこなった。日本近海産の種以外の海産貝類やシノニムなどの足りない情報は、World Register of Marine Species (WoRMS)で補った。両者で学名に相違点があるケースでは、より信頼性の高いWoRMSに従った(WoRMSでは、Editor Review で学名の最終チェックをしている点と、学名の原記載を明示している点大きい)。入力されている命名年が BISMaL で検索された学名の命名年と異なるケースでは、原記載が明示される WoRMS で再確認をおこなった。陸・淡水産二枚貝類の検索は、Worldwide Mollusc Species Data Base (WMSDB)と MUSSEL Project Database (MUSSELp)を使用した。収蔵資料 DB に入力されている種や亜種の学名に誤入力があるケースでは、WMSDB で検索可能なことが多かった[曖昧(fuzzy)検索のアルゴリズム

*山形県立博物館 嘱託

ムが他の DB より優れている]。WoRMS や WMSDB の記載に違和感を覚えた時は、GBIF で最終的な判断を下した。頭足綱/掘足綱/多板綱(資料数 152 点)も基本的に BISMAL や WoRMS を参考にし、疑義のあるケースでは WoRMS に従った。

昆虫綱(チョウ目)17,313 点中、S-Net へ 2014 年度に登録された 14,923 点を除いた、2,390 点の和名・学名を精査した。チョウ類を含む昆虫類の DB は、基本的に九州大学大学院農学研究院昆虫学教室の昆虫学データベース(KONCHU)を使用した。この DB は「日本、アジア、太平洋地域産昆虫・クモ・ダニ類の種情報データベース」をうたっていて、上位は科名レベルまでの検索が可能である。この項ではチョウ目 Lepidoptera 以外の選択肢が存在しないので、科名レベルまでの検索で充分であった。羽角・本間(2019)では、この DB を使用した感想として「9 割 5 分以上の正確性がある」と記述したが「チョウ目の未登録種で、和名のある種や亜種の学名に関しては、6 割弱の正確性しかない」という印象であった(前の担当者が手に負えない学名を残したようである)。他の地域(主に中南米)のシジミチョウ科 Lycaenidae, アゲハチョウ科 Papilionidae, シロチョウ科 Pieridae に関しては、Catalogue of Life (CoL)の Global Butterfly Information System (GloBIS)を使用した。他の科に関しては、Global Lepidoptera Names Index (LepIndex)を使用した。GloBIS や LepIndex では属名や種小名(亜種小名)の曖昧検索のアルゴリズムが機能せず、属名や種小名、亜種小名のそれぞれで再検索を掛けた。KONCHU や GloBIS、LepIndex でカバーし切れない台湾産チョウ類に関しては、台湾生物多様性資訊入口網 Taiwan Biodiversity Information Facility の National Checklist of Taiwan を使用した。DB 間で記載に違和感を覚えるケースでは、GBIF で最終的な判断を下した(2019 年 10 月 22 日付で GBIF Japan が作成されているので、それ以前にアクセスしたケースでは、結論が異なる可能性がある)。収蔵資料 DB の採

集地と KONCHU の分布域が異なるケースでは、最終的に GBIF で分布域のプロットを確認した。KONCHU に和名も学名もないケースでは、文章を短くするために、このことには言及しなかった。チョウ目では命名年が角括弧に囲まれているケースが少なくなく、これは当初の命名時に命名年が不明であり、のちに判明、もしくは外的証拠により推定されたことを示す(GloBIS の角括弧が GBIF では除かれているケースが多い)。

採集地情報(市町村合併前の地名)は主に Google と Wikipedia で検索し、日本語の地名は地名辞典オンライン(大字までの検索が可能)を参考にした。採集地に、たとえば山形県上山市生居と入力されていて、上生居、中生居、下生居の判断が出来ないケースでは、生居地区(Namai District)と入力した。

3 特筆すべき事項

文章全体が長いので、トピック性の高い事項を選んで以下に示す。時間がない研究者は、ここだけ読んで済ますことも可能かもしれない。

ウミギク *Spondylus (Spondylus) barbatus* Reeve, 1856 (*barbatus* の誤入力)は、BISMAL では、和名なし種の *Spondylus barbatus* Reeve, 1856 がシノニムで出て来て、和名と種小名が異なるメンガイ *Spondylus squamosus* Schreibers, 1793 が有効な和名・学名であった(WoRMS でも有効)。チリボタン *Spondylus (Spondylus) barbatus cruentus* Lischke, 1868 は肥後・後藤(1993)と一致したが、BISMAL では紅色植物門 Rhodophyta のチリボタン *Halichrysis japonica* Segawa, 1941 が出て来る。WMSDB で *Spondylus barbatus cruentus* を検索すると、*Spondylus cruentus* C. E. Lischke, 1868 がヒットした。チリボタン *Spondylus cruentus* Lischke, 1868 は、奥谷(2000)や Wikipedia と一致したが、BISMAL に和名も学名もなかった。この学名は WoRMS ではシノニムになっていて、種小名が異なる *Spondylus squamosus* Schreibers, 1793 が適用されていた。これはメンガイ

の学名なので、チリボタン *Spondylus cruentus* Lischke, 1868 をメンガイ *Spondylus squamosus* Schreibers, 1793 に変更すべきなのかもしれないが、それだと日本貝類学会研究連絡誌の名称である「ちりぼたん」が消えてしまう。2019年4月20日付で日本貝類学会の事務局に公式見解を尋ねるメールを送ったが、この原稿の提出日(2020年2月21日)までに回答は得られなかった。チリボタンは和名も学名も消失し、メンガイ *Spondylus squamosus* Schreibers, 1793 が、現在の有効な和名・学名であると結論付けた。

タテハチョウ科 Nymphalidae で入力されているベニモンクロタイマイ *Eurytides harmodius harmodius* は、GBIF (2019) で *Eurytides harmodius* Doubleday, 1846 という学名が赤字で出て来たが、疑義があるようで「Deleted on February 1, 2018」という取り扱いであった(タテハチョウ科 Nymphalidae は誤りなので、アゲハチョウ科 Papilionidae に訂正した)。Google 検索で *Eurytides harmodius* の学名は数多く出て来るが、この学名が最近になって GBIF で削除されたのであれば、学名は不明なままである。GBIF の事務局(コペンハーゲン)に、2019年7月25日付メールで *Eurytides harmodius* Doubleday, 1846 の現在の学名を尋ねたところ、その日の内に「GBIF に、信頼できる答えを与えられる分類学の専門家はいない。GBIF では、基本的に CoL のリストを使用している。GBIF では、*Eurytides harmodius* は属の階級で一致するだけで、学名の正当性を示すものは何もない。分類学上、または命名規約上の信頼性を保証するものではないが、*Eurytides harmodius* を *Mimoides xeniades* の新参異名(junior synonym)と記述するサイトがある」という回答が得られた。LepIndex や GBIF で *Mimoides xeniades* を検索すると、*Mimoides xeniades* (Hewitson, 1867) が出て来て、*Eurytides harmodius* Doubleday, 1846 とは属名が異なる *Papilio harmodius* Doubleday, 1846 がシノニムになっていた。*Eurytides* から *Papilio* や *Mimoides* への属名の変遷が不明ではあったが、和名なし(旧ベ

ニモンクロタイマイ) *Mimoides xeniades* (Hewitson, 1867) を有効な和名・学名と判断した。

ポルチスモルフオチョウ *Morpho portis portis* Hübner, 1822 に、LepIndex や GBIF では命名年が 100 年も異なる *Morpho portis* Hübner, 1916/24 が適用されていたが、Hübner の命名者名で 1916/24 の命名年があり得ず、*Morpho achillaena* Hübner, 1816/24 や *Morpho aega* Hübner, 1816/24 といった別の学名が存在することから、*Morpho portis* Hübner, 1816/24 が有効学名と思われた。GBIF の事務局に、2019年8月18日付メールで *Morpho portis* Hübner, 1916/24 の正しい命名年を尋ねたところ、8月21日付メールで「あなたの理解(1816/24)で正しいので、CoL に警告する」という回答が得られた。

ベンゲットアゲハ *Papilio benguetanus* Joicey & Talbot, 1929 (採集地はフィリピン) は、GloBIS や GBIF では、種小名の語尾と命名年が異なる *Papilio benguetana* Joicey & Talbot, 1923 が有効学名であった。問題は、GloBIS の分布域がフィリピンであるのに対し、2019年9月23日の時点で、分布域を示す GBIF の地図が東京にだけプロットされていることであった(10 Occurrence Datasets ではフィリピンになっているので、東京は明らかな GBIF のミス)。このことを GBIF の事務局にメールで指摘したところ、その日の内に返事があり「この位置が疑わしいことを彼らに知らせる」とのことであった(彼らが誰かは不明)。

ツマベニチョウには 2 つの学名が入力されていた [*Hebomoia glaucippe glaucippe* (Linnaeus, 1758); *Hebomoia glaucippe liukiensis* (Linnaeus, 1758)]。ツマベニチョウ(パラワン亜種) *Hebomoia glaucippe palawanensis* (Fruhstorfer) とツマベニチョウ(台湾亜種) *Hebomoia glaucippe formosana* (Fruhstorfer) も入力されていた。KONCHU では、命名者名と命名年が異なる、ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe liukiensis* Fruhstorfer, 1898 が適用されていたが、この学名と *Hebomoia glaucippe palawanensis* (Fruhstorfer) は

GloBISやGBIFの*Hebomoia glaucippe* (Linnaeus, 1758)の亜種に含まれなかった。GBIFでは、*Hebomoia glaucippe formosana* Fruhstorfer, 1908が存在した。画像を見ると、前羽の両縁に紅色が存在せず、表側が薄黄色、裏側が薄草色で、斑紋が4つあることから、ツマベニチョウとは別の亜種と判断した(ヤマキチョウ *Gonepteryx maxima* Butler, 1885 と良く似た亜種?)。この画像の情報源を見ると、2016年に、属名と種小名が異なる *Gonepteryx amintha formosana* (Fruhstorfer, 1908)へと学名が変更されていた[ヤマキチョウと同じ属。GBIFでは、*Hebomoia glaucippe formosana* Fruhstorfer, 1908の同タイプ異名(homotypic synonym)として扱われている]。動物収蔵庫で標本を調べたところ、明らかなツマベニチョウであった。

2019年10月24日付メールでGBIFの見解を尋ねると「GBIFの分類は間違っていたので、フィードバックシステムに上げたいから了解をもらいたい」との返信があった(see ManonGros, 2019)。和名なし[旧ツマベニチョウ(台湾亜種)] *Hebomoia glaucippe formosana* Fruhstorfer, 1908 (GBIFの有効学名)を適用すべきではないと判断し、総ての資料にツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe* (Linnaeus, 1758)を適用した。

フトモンコスカシバ *Synanthedon scoliaeformis japonica* Špatenka & Arita, 1992にLepIndexやGBIFでは亜種小名の語尾と命名者名が異なる *Synanthedon scoliaeformis japonicum* Špatenka & Arita, 1992が適用されていたが、原著論文には種小名の語尾が異なり、命名者名が元に戻った *Synanthedon scoliaeforme japonicum* Špatenka & Arita, 1992が記載されていた(Špatenka & Arita, 1992)。LepIndexやGBIFのparentは *Synanthedon scoliaeformis* (Borkhausen, 1789)だが、ラテン語では3つの組み合わせが可能と考えられる(i.e., *scoliaeforme japonicum*, *scoliaeformis japonica*, and *scoliaeformis japonicus*)。いずれにしてもŠpatenkaはŠpatenkaに取って代わられるべきで、GBIFに2019年11月6日付で確認のメールを送り、*Synanthedon*

scoliaeformis japonicum Špatenka & Arita, 1992を有効学名と結論付けた(GBIFの回答: The species was first described as *Sphinx scoliaeformis* and we follow the lepidopterological convention of using original spellings rather than seeking gender agreement)。

イジンノユメ *Callanaitis disjecta* (Perry, 1711)は肥後・後藤(1993)と一致したが、Linnaeus以前の命名年に違和感を覚えた。WoRMSに学名はなかったが、WMSDBの曖昧検索で、modified Genus *Callanaitis* to *Circumphalus* と出て来た。WMSDBでは、属名と命名年が100年も異なる *Circumphalus disjecta* (G. Perry, 1811)がシノニムになっていて、更に属名が異なる *Bassina disjecta* (G. Perry, 1811)が有効学名であった(WoRMSでも有効)。

トバニシキ *Chlamys (Chlamys) islandicus hindsi* (Carpenter, 1864) (採集地はサハリン)は、WoRMSに学名がなく、WMSDBのexpanding searchで、亜種から種へと昇格し、種小名が異なる *Chlamys rubida* R. B. Hinds, 1845が出て来た。Googleでトバニシキを検索すると、収蔵資料DBとは種小名の語尾が異なる *Chlamys islandica hindsi* (Carpenter, 1864)が出て来て、注釈に「= *C. hindsi* (Carpenter, 1864)」とあった(微小貝データベース, 2019a)。*Chlamys hindsi*はWoRMSに該当する種がなく、WMSDBでは *Pecten hindsi* Carpenter, 1864がシノニムで出て来て、前述の *Chlamys rubida* R. B. Hinds, 1845が適用されていた。WoRMSで *Pecten hindsi*を検索すると、WMSDBと同じ *Chlamys rubida* (Hinds, 1845)が有効学名になっていたが、この種は生息域がWashingtonからAlaskaになっていることから、別種の可能性が高いと思われる。 *Chlamys islandica hindsi* (Carpenter, 1864)の注釈には「カミオニシキ *C. islandica* (Dall)の地方変異」とあった(微小貝データベース, 2019a)。収蔵資料DBにはオーロラニシキ *Chlamys (Chlamys) islandica islandica* (Müller, 1776)があり、WoRMSでは *Chlamys islandica* (O. F. Müller, 1776)が有効学名であった[命名

者名の Müller は、引用元と考えられる肥後・後藤(1993)の記述ミス]。収蔵資料 DB にはカミオニシキ *Chlamys (Chlamys) islandicus erythrocomatus* (Dall, 1867)もあり、WoRMS に学名がなかったが、WMSDB では種小名・亜種小名の語尾と命名年が異なる *Chlamys islandica erythrocomata* Dall, 1907 が有効学名であった。Google で *Chlamys islandica hindsii* を引用検索すると、この学名(亜種小名は *hindsii* ではなく *hindsii*)は「ベーリングニシキの選定基準標本 (lectotype of *C. behringiana*)」と出て来た(MacNeil, 1967)。収蔵資料 DB のベーリングニシキ *Chlamys (Chlamys) islandica behringiana* (Middendorff, 1849)は WoRMS に学名がなかったが、WMSDB で *Chlamys behringiana* A. T. von Middendorff, 1849 が出来た。WoRMS で改めて検索すると、*Chlamys behringiana* (Middendorff, 1849)が有効学名であった。トバニシキはベーリングニシキの正基準標本(holotype)に2種類以上の貝が混じっていたケースと判断し、和名なし(旧トバニシキ) *Chlamys islandica hindsii* (Carpenter, 1864)を有効な和名・学名と結論付けた。

ワスレガイ *Cyclosunetta menstrualis* (Menke, 1843) は BISMAL と一致したが、学名は WoRMS になく、WMSDB では modified Genus *Cyclosunetta* to *Sunetta* と出て、属名が異なる *Sunetta menstrualis* (K. T. Menke, 1843)が適用されていた(WoRMS でも有効)。シマワスレ *Cyclo sunetta concinna* (Dunker, 1865)は、前述のワスレガイと属名が同じであれば(*Cyclosunetta*)、属名が二分された誤入力のせいで、種が亜種のように見えているものと当初は考えられた。BISMAL では *Cyclosunetta concinna* (Dunker, 1865)が適用されていたが、WoRMS で *Cyclosunetta concinna* を検索すると、*Sunetta kirai* M. Huber, 2010 という別種が出て来てしまう。WMSDB では、収蔵資料 DB の種小名が属名に、亜種小名が種小名になった *Sunetta concinna* R. W. Dunker, 1865 が有効学名であった(WoRMS でも有効)。

ウラカガミ *Dosinella corrugata* (Reeve, 1850)は肥

後・後藤(1993)と一致したが、BISMAL や WoRMS では属名が異なり、*Dosinia corrugata* (Reeve, 1850)が有効学名であった。問題は2019年5月18日の時点で BISMAL の同じ分類ツリーに、同じ和名で異なる学名を持つウラカガミ *Dosinia angulosa* (Philippi, 1847)が存在することで、この学名は WoRMS でも有効であった。WoRMS では別々の種という取り扱いであることから、BISMAL でも2つの学名は有効と考え、どちらかの和名が間違っていると判断した。肥後・後藤(1993)に、タイワンウラカガミ *Dosinella angulosa* (Philippi, 1847)が存在することから、BISMAL のウラカガミ *Dosinia angulosa* (Philippi, 1847)は、タイワンウラカガミの記述ミスであると結論付けた。

イチョウシラトリ *Merisca (Pistris) capsoides* (Lamarck, 1818)は肥後・後藤(1993)と一致し、奥谷(2000)では *Pistris capsoides* (Lamarck, 1818)が有効学名になっていた。この学名は BISMAL や WoRMS のシノニムになく、属名と種小名が異なる *Serratina diaphana* (Deshayes, 1855)が適用されていた。肥後・後藤(1993)に、イチョウシラトリ *Merisca (Pistris) capsoides* (Lamarck, 1818) = *Tellina diaphana* Deshayes, 1855; ヌノメイチョウシラトリという記述があり、この学名は WoRMS では原記載として適用されていた。しかし BISMAL では、ヌノメイチョウシラトリ *Serratina capsoides* (Lamarck, 1818)という和名・学名も別種として有効とされていた(WoRMS でも有効)。収蔵資料 DB にヌノメイチョウシラトリの和名はなく、イチョウシラトリ *Serratina diaphana* (Deshayes, 1855)を有効な和名・学名と判断した。

ハブタエタマエガイ *Musculus laevigatus* (Gray, 1824)は肥後・後藤(1993)、奥谷(2000)、及び BISMAL と一致したが、WoRMS では *Musculus laevigatus* (J. E. Gray, 1824)がシノニムで、種小名が異なる *Musculus discors* (Linnaeus, 1767)が適用されていた。収蔵資料 DB には、ハブタエタマエガイと同じ学名を持つ、ダイコクタマエガイ *Musculus discors* (Linnaeus, 1767)が

あり、これも肥後・後藤(1993)、奥谷(2000)、及び BISMAL と一致した。BISMAL では前述の2種は独立種であったが、WoRMS の見解に従ってハブタエタマエガイの和名が消失したものと見なし、ダイコクタマエガイ *Musculus discors* (Linnaeus, 1767)を有効な和名・学名と結論付けた。

サクラガイ *Nitidotellina nitidula* (Dunker, 1860)は、BISMAL では *Nitidotellina nitidula* Dunker, 1860 がシノニムになっていて、種小名が変更された *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe, 1961)が適用されていた(WoRMS でも有効。 *Fabulina hokkaidoensis* Habe, 1961 が原記載)。WoRMS で *nitidula* の種小名を持つ学名は *Tellina nitidula* Dunker, 1860 が原記載とされているが、この学名は新参異物同名とされていて(junior homonym of *Tellina nitidula* Deshayes, 1857; *Nitidotellina dunkeri* Bernard, Cai & Morton, 1993 is a replacement name)、BISMAL でも WoRMS でも *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe, 1961)のシノニムになっているので、編集者間で混乱があるものと推察される。いずれにしても、BISMAL の *Nitidotellina nitidula* Dunker, 1860 には、原記載が適用されないものと理解して良い。

淡水産貝類のイシガイ *Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis* v. Martens, 1877 は、肥後・後藤(1993)と一致した。WMSDB では *Unio nipponensis* E. C. Von Martens, 1877 がシノニムとされ、*Nodularia douglasiae* (J. E. Gray in E. Griffith & E. Pidgeon, 1834)が有効学名であった。WoRMS では、命名者名が明確化され、命名年が異なる *Nodularia douglasiae* (Gray, 1833)が適用されていた(原記載は *Unio douglasiae* Gray, 1833)。Gray in E. Griffith & E. Pidgeon, 1834 から Gray, 1833 への命名者名と命名年の変更が気になり、羽角・本間(2019)でドブガイモドキ *Pletholophus tenuis* (Griffith & Pidgeon, 1833)に変更した学名(MUSSELP に掲載)を WoRMS で再調査したところ、命名者名と命名年は Gray, 1833 ではなく、Gray in Griffith & Pidgeon, 1833 が適用されていた。ここには原記載がなく、WoRMS

の編集者間でも混乱しているため、シノニムの変遷が詳述されているという理由から、羽角・本間(2019)と同じく MUSSELP の命名者名 Griffith & Pidgeon, 1833 を採用した。*Anodonta (Sinanodonta) woodiana* (Lea, 1834)には、37 点にドブガイ、1 点にドブガイ(ドブガイ型)、6 点にドブガイ(タガイ型)、10 点にドブガイ(ヌマガイ型)の和名が入力されていた。MUSSELP に詳述されているシノニムの変遷に従って、ドブガイ *Sinanodonta woodiana* (Lea, 1834)、タガイ *Sinanodonta japonica* (Clessin, 1874)、ヌマガイ *Sinanodonta lauta* (Martens, 1877)に変更した。

ニッポンマメアゲマキ *Pseudogaleomma japonica* (A. Adams, 1864) [採集地は山形県鶴岡市小岩川で、肥後・後藤(1993)の模式産地は日本海飛島沖]は肥後・後藤(1993)や BISMAL と一致したが、WoRMS では命名年が 1862 になっていた(原記載は *Galeomma japonica* A. Adams, 1862)。マメアゲマキ *Scintilla vitrea* (Quoy & Gaimard, 1856) (採集地は山形県鶴岡市鼠ヶ関)は肥後・後藤(1993)と一致したが、奥谷(2000)や BISMAL に和名も学名もなかった。肥後・後藤(1993)では、この種の分布域が紀伊半島・能登半島以南になっていて、鈴木庄一郎コレクションの誤同定の可能性が出て来た。WoRMS では、命名年が異なる *Scintilla vitrea* (Quoy & Gaimard, 1856)がシノニムとされ、属名が異なり、種小名が語尾変化した *Lepirodes vitreus* (Quoy & Gaimard, 1856)が有効学名であった。肥後・後藤(1993)にはマメアゲマキ *Scintilla vitrea* (Quoy & Gaimard, 1856) = *Solecardia vitrea japonica* Pilsbry, 1904 の記述もあるが、この学名は WoRMS ではシノニムとされ、*Pseudogaleomma japonica* (A. Adams, 1862)が有効学名であった。肥後・後藤(1993)や WoRMS に従えば、マメアゲマキはニッポンマメアゲマキに吸収されたことになる。問題は WoRMS や WMSDB に、収蔵資料 DB と同じ学名で、命名者名だけ異なる *Scintilla vitrea* Deshayes, 1856 が存在することで、どの学名を採用するか判断が難しかった。

た。収蔵資料 DB の採集地と肥後・後藤(1993)の分布域が異なることから、マメアゲマキ *Scintilla vitrea* (Quoy & Gaimard, 1856)と入力されている種を変更し、ニッポンマメアゲマキ *Pseudogaleomma japonica* (A. Adams, 1862)を有効な和名・学名と結論付けた(*Scintilla vitrea* Deshayes, 1856 は、和名なしの別種と考えるべきである)。

アリサンシジミタテハ *Abisara burnii &ymander* (Fruhstorfer)は明らかな亜種小名の誤入力で、GloBIS では *Abisara burnii* de Nicéville, 1895 という種だけが出て来た。National Checklist of Taiwan では、*Abisara burnii etymander* (Fruhstorfer, 1908)が有効学名であった。収蔵資料 DB で亜種小名の et が&に置き換わった理由としては、当時の担当者が et を&に置換する際、全体を一律に置換した後、学名の確認を怠ったものと推察される。

コムラサキ *Apatura metis substituta* Butler, 1863 は、判断の難しい学名であった。KONCHU では単に命名年が異なる *Apatura metis substituta* Butler, 1873 が有効学名とされ、これを適用して終わらせても良かったのだが、GBIF では *Apatura metis* Freyer, 1829 の3つの亜種名に *substituta* はなかった。LepIndex で *Apatura metis* を検索すると *Apatura ilia metis* Frey, 1829 が、*Apatura substituta* を検索すると *Apatura ilia substituta* Butler, 1873 がヒットした(GBIF では、どちらの亜種名も有効)。これらを総合的に判断し、KONCHU とは種小名が異なるコムラサキ *Apatura ilia substituta* Butler, 1873 を有効な和名・学名と結論付けた。

和名がない *Caleta roxus* (Godart, 1824) (Godart の誤入力)は GloBIS に学名がなかった。*Caleta* 属に *roxus* の種小名はなく、*roxus* で検索すると *Pycnophallium roxus* (Godart, 1823)が見つかった。この学名が正しいか否かの判断が難しく、Google 検索で収蔵資料 DB と同じ *Caleta roxus* (Godart, [1824])が出て来た(Kunte et al., 2019)。2つの学名は同じ英名(Straight Pierrot)を持ち、どちらかの学名に優先権(priority)があると考え

られた。Wikipedia では *Pycnophallium roxus* (Godart, 1823)が使われており、Taxonomy の項に「The butterfly is also classified as *Caleta roxus*」とあったが、学名でどちらも有効はあり得ない。GBIF に *Caleta roxus* (Godart, [1824])は存在せず、*Pycnophallium roxus* (Godart, 1823)を有効学名と判断した。

ヤマトシジミ *Zezeeria maha* (Kollar, 1844) (*Zizeeria* の誤入力)は、KONCHU では、ヤマトシジミ本土亜種 *Zizeeria maha argia* (Menetries, 1857)とヤマトシジミ沖縄亜種 *Zizeeria maha okinawana* (Matsumura, 1929)に分けられていた。問題は採集地情報が不十分なことで、一方には採集地情報がなく、他方には「大江神社」との記述があるだけであった。大江神社を Google で調べると、該当するのは大阪府・鳥取県・熊本県のいずれかであった。採集地が沖縄ではないので、当初は KONCHU に従い、後者をヤマトシジミ本土亜種 *Zizeeria maha argia* (Menetries, 1857)にするのが妥当と考えた。GloBIS で *Zizeeria maha* を検索すると、該当する種や亜種はヒットせず、*Zizeeria* 属に *maha* の種小名を持つ亜種はなかった。GBIF では、*Zizeeri* 属の一部が *Pseudozizeeria* 属に変更され、*Pseudozizeeria maha* の検索で、*Pseudozizeeria maha argia* (Ménétriés, 1857)が出て来た[GloBIS でも有効だが、GBIF の多くのサイトで命名者名に Ménétriés が使われている(Wikipedia では Ménétriés)]。KONCHU では、属名が最新のものではなかったことになる。

ルリヘリトガリイナズマ *Cynitia cocytina puseda* (Moore, 1858)は、Google の引用符検索でヒットするのは収蔵資料 DB のみであった。LepIndex では、属名でも種小名でも検索できず、亜種小名の *puseda* で属名と種小名、命名年が異なる *Tanaecia japis puseda* Moore, 1857 が出て来た。学名の変遷が不明で、この学名が適用可能かどうかの判断が難しかった(GBIF では、*Cynitia* 属のステータスは Doubtful)。Google 検索で、種小名の綴りが異なる *Tanaecia iapis puseda* Moore, 1857 が数多くヒットし、*Cynitia* から *Tanaecia*

への属名変更を記載しているサイトもあった。これらを総合的に判断すると、種小名が異なるだけで、属名と亜種小名、命名者名は同じと考えることが出来る。問題は、種小名が *japis* なのか、*iapis* なのかということで(2019年7月9日時点の Google の引用符検索で *Tanaecia japis puseda* 7件、*Tanaecia iapis puseda* 約 2,140 件)、後者の種小名を採用しているサイトは圧倒的に多いが、そのどれもが DB としての信用度は低いと考えられる。GBIF には、*Tanaecia japis* と 25 infraspecies が記載されているが、*Tanaecia iapis* は存在しない。和名なし(旧ルリヘリトガリイナズマ) *Tanaecia japis puseda* Moore, 1857 を有効な和名・学名と判断した。

シロコモンアサギマダラ *Danua aglea*、ヒメコモンアサギマダラ *Danua limniaca*、台湾アサギマダラ *Danua melaneus* は、明らかな属名(*Danaus*)の誤入力であった。KONCHU にシロコモンアサギマダラはなく、ヒメコモンアサギマダラの学名には属名と種小名が異なり、種から亜種へと降格した *Parantica aglea maghaba* (Fruhstorfer, 1909)が適用されていた(LepIndex や GBIF では *Parantica aglea maghaba* Fruhstorfer, 1909 が有効)。台湾アサギマダラには、属名が異なり、種から亜種へと降格した *Parantica melaneus swinhoei* (Moore, 1883)が適用されていた(LepIndex や GBIF では命名年の入力がない *Parantica melaneus swinhoei* Moore が有効)。LepIndex の *Danaus* 属に *aglea* の種小名はなく、*Parantica* 属を見て行くと、仮に承認された名前(provisionally accepted name)として、同じ属名と種小名に異なる命名者名が入った *Parantica aglea* Cramer, 1781 と *Parantica aglea* Stoll, 1781 の 2 つの学名が出て来た。前者に亜種は含まれず、後者には 3 つの infraspecific taxa が存在した。このことから後者に分があるように思われたが、GBIF は前者を採用していた。和名なし(旧シロコモンアサギマダラ) *Parantica aglea* Cramer, 1781、ヒメコモンアサギマダラ *Parantica aglea maghaba* Fruhstorfer, 1909、

台湾アサギマダラ *Parantica melaneus swinhoei* Moore を有効な和名・学名とするのが妥当と思われた。問題は、これら 3 種の採集地がインドの Darjiring (Darjeeling の誤入力)になっていることで、KONCHU や GBIF の分布域を見ると、ヒメコモンアサギマダラや台湾アサギマダラは台湾と南西諸島にしか分布しない。収蔵資料 DB の和名は間違いで、和名なし(旧シロコモンアサギマダラ) *Parantica aglea* Cramer, 1781、和名なし(旧ヒメコモンアサギマダラ) *Parantica aglea* Cramer, 1781、和名なし(旧台湾アサギマダラ) *Parantica melaneus* Cramer, 1775 を有効な和名・学名と結論付けた。

ルリマダラ(ムラサキマダラ) *Euploea sylvester swinhoei* (Wallace) (*swinhoei* の誤入力。採集地は台湾)に、KONCHU では亜種小名と命名者名が異なるルリマダラ *Euploea sylvester laetifica* Butler, 1866 が適用され(LepIndex でも有効)、分布域は「Ishigaki Is., Iriomote Is.; Taiwan, Philippines」になっていた。LepIndex で属名に *Euploea*、亜種小名に *swinhoei* を入れて検索すると、*Euploea dufresne swinhoei* Wallace & Moore, 1866 が出て来た。どちらの学名も可能性があることから、GBIF で両亜種の分布域を見てみると、KONCHU で有効な *Euploea sylvester laetifica* Butler, 1866 はフィリピンにだけ分布し、*Euploea dufresne swinhoei* Wallace & Moore, 1866 に分布情報はなかった。Google 検索すると、雙標紫斑蝶 *Euploea sylvester* のページに、雙標紫斑蝶 *Euploea sylvester swinhoei* (観測記録数: 251)と雙標紫斑蝶(菲律賓亞種 *Euploea sylvester laetifica* (観測記録数: 44)が出て来た(台湾生物多样性ネットワーク, 2019)。台湾では同じ台湾名に 2 亜種の学名が存在し、後者は「フィリピン亜種」という位置付けなので(GBIF の分布域と一致)、ルリマダラ *Euploea dufresne swinhoei* Wallace & Moore, 1866 を有効な和名・学名と結論付けた。

ホリシャルリマダラには 2 つの学名が入力されていた[*Euploea tulliolus* (Fabricius, 1793)の 4 点(採集地は

ベトナム); *Euploea tulliolus dehaani* Lucas, 1866 の1点(台湾)]。ヒメマルバネルリマダラ(ホリシャルリマダラ)には *Euploea tulliolus koxinga* (Fruhstorfer) の1点(採集地は台湾)が、ヒメマルバネルリマダラには *Euploea tulliolus palawana* (Fruhstorfer) の8点(フィリピン)が入力されていた。これらの和名は KONCHU になく、属名と種小名(*Euploea tulliolus*)の検索で、マサキルリマダラ台湾亜種 *Euploea tulliolus koxinga* Fruhstorfer, 1908 (分布域は「Iriomote Is.; Taiwan」)と、マサキルリマダラフィリピン亜種 *Euploea tulliolus polita* Erichson, 1834 (分布域は「Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is.; Philippines」)が出て来た。これらをそのまま適用することが出来れば、ヒメマルバネルリマダラ(ホリシャルリマダラ) *Euploea tulliolus koxinga* (Fruhstorfer) をマサキルリマダラ台湾亜種 *Euploea tulliolus koxinga* Fruhstorfer, 1908 に、ヒメマルバネルリマダラ *Euploea tulliolus palawana* (Fruhstorfer) をマサキルリマダラフィリピン亜種 *Euploea tulliolus polita* Erichson, 1834 に変更できる可能性があった。LepIndex や GBIF では *Euploea tulliolus palawana* Fruhstorfer, 1900 と *Euploea tulliolus polita* Erichson, 1834 の両種とも学名が生きていて、GBIF で2019年7月24日時点の分布域を見ると、前者はフィリピンに、後者はパラオに生息していた。LepIndex では *Euploea tulliolus* Fabricius, 1793 の infraspecific taxa に *dehaani* の亜種小名は存在せず、どんな検索でも引っ掛かって来なかったが、台湾で採集された資料であることだけは間違いなかった。ホリシャルリマダラ *Euploea tulliolus* (Fabricius, 1793) を和名なし(旧ホリシャルリマダラ) *Euploea tulliolus* Fabricius, 1793 に、ホリシャルリマダラ *Euploea tulliolus dehaani* Lucas, 1866 とヒメマルバネルリマダラ(ホリシャルリマダラ) *Euploea tulliolus koxinga* (Fruhstorfer) をマサキルリマダラ台湾亜種 *Euploea tulliolus koxinga* Fruhstorfer, 1908 に、ヒメマルバネルリマダラ *Euploea tulliolus palawana* (Fruhstorfer) を和

名なし(旧ヒメマルバネルリマダラ) *Euploea tulliolus palawana* Fruhstorfer, 1900 に変更した。

オオゴマダラには、亜種小名が異なる3つの学名が入力されていた[*Idea leuconoe* Erichson, 1834 の1点(採集地は日本); *Idea leuconoe princesa* (Staudinger) (1点がフィリピン、2点が台湾); *Idea leuconoe riukiensis* (Holland, 1893) (1点が日本、1点は情報なし)]。KONCHU では亜種小名が異なるオオゴマダラ *Idea leuconoe clara* Butler, 1867 が適用されていて、分布域は「Yoron Is., Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.; Taiwan」になっていた。LepIndex や GBIF では、*Idea leuconoe* Erichson, 1834 の infraspecific taxa に *riukiensis* の亜種小名は見当たらず、他のどの組み合わせでも該当するものはなかった。GBIF で分布域を見ると、*Idea leuconoe princesa* Staudinger, 1889 はフィリピンにだけ生息していた。日本や台湾で採集した種や亜種にオオゴマダラ *Idea leuconoe clara* Butler, 1867 を、フィリピンで採集した亜種に和名なし(旧オオゴマダラ) *Idea leuconoe princesa* Staudinger, 1889 を適用した。

シロオオゴマダラ *Idea psis hypermnestra linteata* (Butler, 1879) やハイイロホソバオオゴマダラ *Idea psis stollis logani* (Moore, 1883) の学名は、属名が2分割されているのか、種小名や亜種小名が3つあるのかははっきりしなかった。LepIndex で様々な検索の組み合わせを試すと、*psis* が余計に入力されていて(*Ideopsis* の属名からの誤入力か?)、*Idea hypermnestra linteata* Butler, 1879、及び *Idea stollis logani* Moore, 1883 が有効学名であった。ブルガリスヒメゴマダラには2つの学名が入力されていた[*Ideopsis vulgaris* (Butler, 1874) の3点(採集地はベトナム); *Ideopsis vulgaris palawana* (Staudinger) の8点(フィリピン)]。LepIndex では前者の学名に *Ideopsis vulgaris* Butler, 1874 が適用されていた(GBIF で分布域が一致)。LepIndex で属名に *Ideopsis* を、亜種小名に *palawana* を入れて検索すると、種小名と命名者名が異なる *Ideopsis gaura*

palawana Fruhstorfer, 1910 が出て来た(GBIF で分布域が一致)。ブルガリスマダラ *Ideopsis vulgaris macrina* (Fruhstorfer, 1904) は、LepIndex では属名や種小名、亜種小名の、どの組み合わせでも検出できなかった。種小名に *macrina* を入れて検索すると *Radena macrina* Fruhstorfer, 1904 のシノニムが出て来て、*Ideopsis vulgaris* Butler, 1874 が有効学名であった。

テングチョウには 2 つの学名が入力されていた [*Libythea lepita* Moore, 1858 (採集地は日本とだけ入力); *Libythea lepita celtoides* Fruhstorfer, 1909 (岡山県)]。KONCHU では、テングチョウ奄美・沖縄亜種 *Libythea celtis amamiana* Shirozu, 1956 とテングチョウ本土亜種 *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer, [1909] に分けられていた。分布域は、前者が「Amami Oshima Is., Tokunoshima Is., Amami Okinoerabu Is., Okinawa Honto Is., Ishigaki Is., Iriomote Is.」で、後者が「Hokkaido, Honshu, Ogasawara Is., Shikoku, Kyushu, Koshiki Is., Tanegashima Is., Yakushima Is.」であった。LepIndex や GBIF では収蔵資料 DB とは命名年が異なる *Libythea lepita* Moore, 1857 も、種小名が異なる *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer, 1909 も生きていて、どちらの種小名を採用すべきか判断が難しかった。GBIF では、*Libythea lepita* Moore, 1857 の infraspecific taxon が *Libythea lepita formosana* Fruhstorfer, 1908 だけで、台湾にのみ生息することから、日本に生息するテングチョウとは厳然とした区別があるものと考えられた(情報源は National Checklist of Taiwan)。亜種小名に *celtis* を採用した場合、採集地が岡山県と入力されている種にはテングチョウ本土亜種 *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer, 1909 を適用することが可能だが、採集地が日本とのみ入力されている種に *Libythea celtis* (Laicharting, 1782) を適用すると、この種の分布域が日本列島近海で途切れ、地中海沿岸に飛んでしまう(別々の種が混じっている?)。有効な和名・学名として、総ての種にテングチョウ *Libythea lepita* Moore, 1857 を適用した。

ウスイロコノマチョウには 4 つの学名が入力されていた [*Melanitis leda leda* (Linnaeus, 1758) (採集地は 2 点には日本とだけ入力されていて、1 点は情報なし); *Melanitis leda leda* (Linnaeus) の 2 点(フィリピン); *Melanitis leda* の 1 点(インド); *Melanitis leda destitans* (Fruhstorfer) の 2 点(パプアニューギニア)]。KONCHU では *Melanitis leda ismene* (Cramer, [1775]) が適用され、分布域は「Ogasawara Is., Amami Oshima Is., Tokunoshima Is., Amami Okinoerabu Is., Yoron Is., Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.; Oriental」であった(Oriental が何を指すのか不明だが、日本の離島に生息という理解で良い)。LepIndex や GBIF では、*Melanitis leda* Linnaeus, 1758 と *Melanitis leda ismene* Cramer, 1775 はあるが、パプアニューギニアの *destitans* はどの組み合わせでも検索できなかった。GBIF で分布域を見ると、前者は日本列島を含むアジア・オセアニア地域からアフリカまで広範囲に生息し、後者は日本列島からフィリピン・インドネシアを経て、マレーシア・ミャンマー・バングラデシュ・インドまで生息していた(パプアニューギニアにプロットはない)。KONCHU の和名・学名・分布域が正しければ、日本の離島以外の本州・四国・九州やフィリピンからインドまでのプロットは別種の可能性が高く、KONCHU の学名を適用するのは危険と判断した。収蔵資料 DB の 4 学名に、和名なし(旧ウスイロコノマチョウ) *Melanitis leda* Linnaeus, 1758 を適用した。

コヒョウモンモドキ *Melitaea ambigua nippona* Butler, 1878 に、KONCHU では *Melitaea britomartis nippona* (Butler, 1878) が適用されていた。LepIndex に *britomartis* の種小名は存在せず、*ambigua* で検索すると *Melitaea ambigua* Ménétriés, 1859 のシノニムが出て来て、種小名が異なる *Melitaea leucippe* Schneider, 1787 が適用されていた(GBIF では日本と極東アジアに分布。いずれにも *nippona* の亜種小名は引っ掛かって来ない)。GBIF では、*Melitaea britomartis* Assmann,

1847 が存在し、分布域はヨーロッパのみであった(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)。この種には infraspecific taxon が存在せず、KONCHU の *Melitaea britomartis nippona* (Butler, 1878)には齟齬があるものと思われた。コヒョウモンモドキ *Melitaea leucippe* Schneider, 1787 を有効な和名・学名と判断した。

ジャコウアゲハには2つの学名が入力されていた [*Byasa alcinous alcinous* (Klug, 1836) (採集地は1点が高知県、5点には日本とだけ入力); *Byasa alcinous loochooana* (Rothschild, 1896)の1点(沖縄)]。KONCHU で、この種は5つの亜種に分けられていた[ジャコウアゲハ本土亜種 *Byasa alcinous alcinous* (Klug, 1836); ジャコウアゲハ八重山亜種 *Byasa alcinous bradani* (Fruhstorfer, 1908); ジャコウアゲハ奄美沖縄亜種 *Byasa alcinous loochooana* (Rothschild, 1896); 宮古亜種 *Byasa alcinous miyakoensis* Omoto, 1960; 屋久島亜種 *Byasa alcinous yakushimana* (Esaki & Umeno, 1929)]。収蔵資料 DB で KONCHU と同じ学名が使われていることから、最初はジャコウアゲハ本土亜種 *Byasa alcinous alcinous* (Klug, 1836)とジャコウアゲハ奄美沖縄亜種 *Byasa alcinous loochooana* (Rothschild, 1896)を適用できると考えた。GloBIS や GBIF では亜種への分化を認めておらず(属名が異なる *Papilio alcinous loochooanus* Rothschild, 1896 をシノニムにしている)、分布域が一致したことから、ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* (Klug, 1836)を有効な和名・学名と判断した。

シリアアゲハ *Papilio archon apollinus* (Herbst, 1798) (採集地はトルコ)は、GloBIS では種小名が属名に、亜種小名が種小名になった *Archon apollinus* (Herbst, 1798)が有効学名であった。この変更は前述のシマワスレ [*Cyclo sunetta concinna* (Dunker, 1865)から *Sunetta concinna* Dunker, 1865 への変更]と同じパターンで、GBIF に基礎異名(basionym)として、種から亜種へと昇格した *Papilio apollinus* Herbst, 1798 が存在することから(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)、いきなりの変更ではないことが判明した。

カラスアゲハには3つの学名が入力されていた [*Papilio dehaanii* C. & R. Felder, 1864 の11点(*dehaanii* の誤入力。採集地は日本。2点は福島県と山形県); *Papilio dehaanii dehaanii* C. & R. Felder, 1864 の3点(日本。2点は神奈川県); *Papilio bianor takasago* (Nakahara & Esaki)の1点(台湾)]。KONCHU で、カラスアゲハは6亜種に分けられていた[カラスアゲハ奄美亜種 *Papilio bianor amamiensis* (Fujioka, 1981); カラスアゲハ本土亜種 *Papilio bianor dehaanii* C. & R. Felder, 1864; カラスアゲハ八丈島亜種 *Papilio bianor hachijonis* Matsumura, 1919; カラスアゲハ八重山亜種 *Papilio bianor junia* Jordan, 1909; カラスアゲハ沖縄亜種 *Papilio bianor okinawensis* Fruhstorfer, 1898; カラスアゲハトカラ亜種 *Papilio bianor tokaraensis* Fujioka, 1975]。GloBIS で、*Papilio bianor* Cramer, [1777]は亜種を含まなかった。GBIF では、*Papilio bianor* Cramer, 1777 の8亜種中3亜種が KONCHU と一致したが、いずれも命名年を含まなかった [*Papilio bianor dehaanii* Felder & Felder; *Papilio bianor junia* Jordan; *Papilio bianor okinawensis* Fruhstorfer: 情報源は GBIF Type Specimen Names]。GBIF では8亜種中1亜種が台湾にのみ分布することから、*Papilio bianor takasago* (Nakahara & Esaki)には、亜種小名が異なる、和名なし(旧カラスアゲハ) *Papilio bianor thrasymedes* Fruhstorfer, 1909 を適用し、日本から採集された資料には、離島が含まれないと判断し、カラスアゲハ本土亜種 *Papilio bianor dehaanii* Felder & Felder を適用した。収蔵資料 DB には、他にオキナワカラスアゲハ *Papilio okinawensis* Fruhstorfer, 1898 があり、これにはカラスアゲハ沖縄亜種 *Papilio bianor okinawensis* Fruhstorfer を適用した。

ナガサキアゲハには5つの学名が入力されていた [*Papilio memnon* Linnaeus, 1758 (採集地は2点がベトナム、1点は情報なし); *Papilio memnon agenor* Linnaeus, 1758 の1点(情報なし); *Papilio memnon heronus* (Fruhstorfer)の1点(台湾); *Papilio memnon*

heronus Fruhstorfer, 1903 (2点が台湾、1点は情報なし); *Papilio memnon thunbergii* von Siebold, 1824 の2点 (*thunbergii* の誤入力。日本)。KONCHU では、ナガサキアゲハ *Papilio memnon thunbergii* von Siebold, 1824 が適用され、分布域は日本のみであった(Honshu, Shikoku, Kyushu, Tanegashima Is., Yakushima Is., Tokara Is., Amami Oshima Is., Tokunoshima Is., Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.)。GloBIS や GBIF では、収蔵資料 DB の *Papilio agenor* Linnaeus, 1758 と *Papilio memnon heronus* Fruhstorfer, 1902 がシノニムとされ、*Papilio memnon* Linnaeus, 1758 が適用されていた。KONCHU の *Papilio memnon thunbergii* von Siebold, 1824 は存在せず、GBIF の分布域が日本も含むことから、5 つの学名の総てにナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus, 1758 を適用した。

クロアゲハには2つの学名 [*Papilio protenor amaaura* (Jordan) の2点(採集地は台湾); *Papilio protenor demetrius* Stoll, 1782 (4点は日本とだけ入力、2点が山形県、3点が熊本県)] が入力されていたが、判断が難しいもののひとつであった。KONCHU でクロアゲハは、クロアゲハ本土亜種 *Papilio protenor demetrius* Stoll, [1782] (Honshu, Shikoku, Kyushu, Amami Oshima Is.; Korean Pen.に分布) とクロアゲハ沖縄亜種 *Papilio protenor liukiensis* Fruhstorfer, [1899] (Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.) に分けられていた。GloBIS では *Papilio protenor* Cramer, [1775] に亜種はなかったが(GBIF では 1775。北海道を除く日本列島からインドまで分布)、GBIF では命名年が異なる *Papilio protenor liukiensis* Fruhstorfer, 1898 が存在した(分布域は本州、四国、伊豆大島、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島。情報源は National Checklist of Taiwan)。第一の問題は、この学名に KONCHU ではクロアゲハ沖縄亜種の和名が与えられているが、分布域が琉球列島だけなので、GBIF の場合、別の種や亜種を含む可能性があることである。第二の問題は GloBIS と GBIF に *Papilio demetrius* Stoll,

1782 という種が別に存在することで(分布域は 2019 年 9 月 29 日の時点で本州にのみプロット)、この学名にはクロアゲハ本土亜種の和名が適用できない。亜種名に疑義があることから、関連する総てをクロアゲハ *Papilio protenor* Cramer, 1775 に集約した。

エゾスジグロシロチョウ *Pieris dulcinea* (Butler, 1882) (*dulcinea* の誤入力。採集地は山形県白鷹町) は、KONCHU では種小名が異なるエゾスジグロシロチョウ本州以南亜種 *Pieris napi japonica* Shirozu, 1952 と、エゾスジグロシロチョウ北海道亜種 *Pieris napi nesis* Fruhstorfer, 1909 に分けられていた。他にヤマトスジグロシロチョウ *Pieris nesis* (Fruhstorfer, 1909) も入力されているが、この学名はどの DB にも存在しない (KONCHU のエゾスジグロシロチョウ北海道亜種 *Pieris napi nesis* Fruhstorfer, 1909 に相当する種と思われる)。GloBIS や GBIF では *Pieris dulcinea* (Butler, 1882) も *Pieris napi* (Linnaeus, 1758) も存在するが、前者は亜種を持たない。GBIF では、後者の immediate children に *japonica* も *nesis* も含まれない (ヤマトスジグロシロチョウの学名は消失した)。松田(2009) は、*Pieris dulcinea* (Butler, 1882) が *Artogeia napi napi* の夏型オスに命名された学名であると判断し、これに *Artogeia napi dulcinea* を充てた。GBIF で *Artogeia* は *Pieris* Schrank, 1801 のシノニムなので、エゾスジグロシロチョウ *Pieris napi* (Linnaeus, 1758) を有効な和名・学名と判断した。

クモツマキチョウ *Anthocharis cardamines isschikii* Matsumura, 1925 [採集地は1点が山梨県、2点に二軒小屋とだけ入力(静岡県)] は、KONCHU ではクモツマキチョウ北アルプス・戸隠亜種 *Anthocharis cardamines isschikii* Matsumura, 1925 とクモツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種 *Anthocharis cardamines hayashii* Fujioka, 1970 に分けられていた。収蔵資料 DB の学名が正しければ、和名をクモツマキチョウ北アルプス・戸隠亜種に変更すれば済む話だが、採集地が山梨県と静岡県なので、クモツマキチョウ

八ヶ岳・南アルプス亜種 *Anthocharis cardamines hayashii* Fujioka, 1970 が適用可能と思われた。GloBIS や GBIF では *Anthocharis cardamines* (Linnaeus, 1758) に亜種が存在せず、ヨーロッパを中心に広域分布する種との認識から、クモマツマキチョウ *Anthocharis cardamines* (Linnaeus, 1758) を有効学名と判断した。

オオミズアオ *Actias aliena* (Butler, 1879) は、KONCHU では 2 亜種[オオミズアオ *Actias artemis artemis* (Bremer & Grey, 1853); オオミズアオ本州亜種 *Actias artemis aliena* Butler, 1879]に分けられていた。LepIndex や GBIF では、*Actias artemis* Bremer & Grey, 1853 と *Actias aliena* Butler, 1879 の 2 種が存在した。ここで問題となるのが「どちらの学名にオオミズアオの和名が与えられるのか？」という疑問である。近年、*artemis* のタイプ標本が日本産オオミズアオとは近縁の別種であることが明らかになり(岸田, 2011)、オオミズアオ *Actias aliena* Butler, 1879 を適用した。

4 二枚貝綱

目名の誤入力(o が余分に挿入)が少なからず見られた(e.g., Arcida 目がフネガイ目 Arcoidea に; Myida 目がオオノガイ目 Myoida に; Mytilida 目がイガイ目 Mytiloida に; Solemyida 目がキヌタレガイ目 Solemyoida に; Trioniida 目がサンカクガイ目 Trionioida に)。これらの誤入力は、BISMaL と一致した。目名の変更も見られた[e.g., 新ヒザラガイ目 Neoloricata が Chitonida 目に; マルスダレガイ目 Veneroida (WoRMS では Venerida 目)の一部が Adapedonta 目・Cardiida 目・Carditida 目・Galeommatida 目・Lucinida 目・Sphaeriida 目に]。ウグイスガイ目 Pterioidea は BISMaL では有効だったが、WoRMS では Ostreida 目になっていた(Ostreida Férussac, 1822)。BISMaL ではカキ目 Ostreoida Férussac, 1822 になっていて、これも目名の誤入力と判断した。

科名の変更が少なくなかった[e.g., イタヤガイ科 Pectinidae がワタヅコツキヒ科 Propeamussiidae に; イ

ソカゼガイ科 Sportellidae が Basterotiidae 科に; マメシジミ科 Pisiidae が Sphaeriidae 科に(新科記載 Sphaeriidae Lemer, Bieler & Giribet, 2019); イシガイ科 Unionidae の一部が Margaritiferidae 科に; バカガイ科 Mactridae の一部がチトセノハナガイ科 Anatinellidae に; マルスダレガイ科 Veneridae の一部がツキガイ科 Lucinidae に; ツキガイ科 Lucinidae の一部がザルガイ科 Cardiidae に; モシオガイ科 Crassatellidae の一部がエゾシラオガイ科 Astartidae に; ハマユウガイ科 Clavagellidae の一部が Penicillidae 科に; ウスヒザラガイ科 Ischnochitonidae の一部が Tonicellidae 科に]。

トリガイ *Fulvia mutica* (Reeve, 1844) は BISMaL や WoRMS と一致したが、5 点にザルガイ科 Cardiidae、1 点にシャコガイ科 Tridacnidae と入力されていた(後者は誤入力)。ヘノジガイ *Curvemysella paula* (A. Adams, 1856) も BISMaL や WoRMS と一致したが、科名がブンブクヤドリガイ科 Montacutidae からチリハギガイ科 Lasaeidae に変更されていた。シラサヤツノガイ科 Gadiliniidae の一部に、WoRMS では Gadilida incertae sedis と記されていた[incertae sedis = uncertain seat 地位が不確実: 上位分類群が決まっていない場合に用いられる。書くとなれば、Gadilida 科(incertae sedis)か? BISMaL や WoRMS には、別にクチキレツノガイ目 Gadilida が存在する]。

シラスナガイ *Oblimopa japonica* (A. Adams, 1863) に BISMaL では種小名が異なる *Oblimopa multistriata* (Forskaal, 1775) (Forsskål の誤入力)が適用されていたが、WoRMS では *Oblimopa multistriata* (Forsskål in Niebuhr, 1775) がシノニムとされ、属名も異なる *Limopsis multistriata* (Forsskål in Niebuhr, 1775) が有効学名であった。ナミジワシラスナガイ *Crenulilimopsis oblonga* (A. Adams, 1860) は BISMaL と一致したが、WoRMS ではシノニムとされ、属名と種小名が異なる *Limopsis crenata* A. Adams, 1863 が適用されていた(BISMaL では、この学名がシノニム)。マメイシラスナガイ *Nipponolimopsis decussata* (A. Adams, 1862)

(BISMaL ではマメシラスナガイ)は WoRMS ではシノニムで、属名と種小名が異なる *Limopsis nipponica* Yokoyama, 1922 が有効学名であった(BISMaL は、この学名もシノニムにしている)。ツヤガラス *Modiolus elongatus* (Swainson, 1821)は BISMaL と一致したが、WoRMS では属名が異なり、種小名が語尾変化した *Jolya elongata* (Swainson, 1821)が有効学名であった。ヌリマクラ *Botula silicula* (Lamarck, 1819)は、WoRMS では属名が異なる *Botulopa silicula* (Lamarck, 1819)がシノニムとされ、属名が元に戻り、種小名が異なる *Botula cinnamomea* (Gmelin, 1791)が適用されていた。

ハボウキガイ *Pinna bicolor* Gmelin, 1791 は、肥後・後藤(1993)や奥谷(2000)と一致した。BISMaL では種小名が異なる *Pinna attenuata* Reeve, 1858 が適用されていたが、これとは別に、和名なし *Pinna bicolor* Gmelin, 1791 が存在した。WoRMS でも、2つの種が独立して存在している[肥後・後藤(1993)には、ハボウキガイに「= *attenuata* Reeve, 1858」と記載されている]。ハボウキガイ *Pinna attenuata* Reeve, 1858 を有効な和名・学名と判断した。ウグイスガイ *Pteria brevialeta* (Dunker, 1873)は BISMaL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Pteria heteroptera* (Lamarck, 1819)が有効学名であった。フクラスズメ *Pteria loveni* (Dunker, 1873)も BISMaL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Pteria gregata* (Reeve, 1857)が有効学名であった。アコヤガイ *Pinctada martensii* (Dunker, 1873)は BISMaL では命名年が 1872 になっていたが、WoRMS では更に命名年が異なる *Pinctada martensii* (Dunker, 1880)がシノニムとされ、種小名が異なる *Pinctada imbricata* Röding, 1798 が適用されていた。シロチョウガイ *Pinctada maxima* (Jameson, 1932)は BISMaL と一致したが、WoRMS では命名年が 1901 になっていた[原記載は *Pteria (Margaritifera) maxima* Jameson, 1901]。ヒリョウガイ *Malleus (Malvufundus) irregularis* (Jousseume, 1894)は、BISMaL ではヒリョウ *Malleus irregularis* (Jousseume,

1894)が適用されていたが、この学名は WoRMS になかった。WMSDB では、*Malvufundus irregularis* F. P. Jousseume, 1894 がシノニムとされ、種小名が異なる *Malleus legumen* L. A. Reeve, 1858 が有効学名であった(WoRMS でも有効)。

ヤガスリヒヨク *Bractaeclamys coruscans* (Hinds, 1845)は、どの DB にも見当たらず、Google でヤガスリヒヨクを検索すると、属名が異なる *Chlamys coruscans* (Hinds, 1845)が出て来た(微小貝データベース, 2019b)。この学名は WoRMS ではシノニムで、属名が異なる *Paschimites coruscans* (Hinds, 1845)が有効学名であった。チビナデシコガイ *Comptonetes striatus* は、WoRMS の曖昧検索で *Camptonectes striatus* (O. F. Müller, 1776) (*Comptonetes* は *a* が *o* になり、*c* が抜けた誤入力)がシノニムとして出て来た。属名が変更され、種小名が語尾変化した *Palliolium striatum* (O. F. Müller, 1776)が有効学名であった。ツキヒガイ *Amusium japonicum japonicum* (Gmelin, 1791) は BISMaL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Ylistrum japonicum* (Gmelin, 1791)が有効学名であった(2014年の新属記載: *Ylistrum* Mynhardt & Alejandrino, 2014)。オオハリナデシコ *Delectopecten randolphi* (Dall, 1897)は奥谷(2000)、及び BISMaL と一致したが、WoRMS ではシノニムとされ、種小名が異なる *Delectopecten vancouverensis* (Whiteaves, 1893)が有効学名であった(採集地はカナダのブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーで、北太平洋から日本海に分布する広域種)。

コガネウミギク *Spondylus (Spondylus) aurantius* (Lamarck)は WoRMS では *Spondylus aurantius* Lamarck, 1819 がシノニムで出て来て、種小名が異なる *Spondylus versicolor* Schreibers, 1793 が有効学名であった。収蔵資料 DB にはウニメンガイ *Spondylus (Spondylus) versicolor* Schreibers, 1793 があり、BISMaL や WoRMS では *Spondylus versicolor* Schreibers, 1793 が適用されていた。コガネウミギクの和名を変更し、

ウニメンガイ *Spondylus versicolor* Schreibers, 1793 を有効な和名・学名と結論付けた。シラガウミギク *Spondylus (Spondylus) plurispinosus* Reeve, 1856 も、コガネウミギクと同じく BISMAL に和名も学名もなかったが、WoRMS では *Spondylus plurispinosus* Reeve, 1856 がシノニムで出て来て、*Spondylus versicolor* Schreibers, 1793 が有効学名であった(和名をウニメンガイに変更)。BISMAL では、ウニメンガイのシノニムに、コガネウミギクもシラガウミギクもない。

ネズミノテ *Plicatula simplex* Gould, 1861 は BISMAL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Plicatula regularis* Philippi, 1849 が有効学名であった。メンガイモドキ *Spondylus sanguineus* には、注釈にチイロメンガイの和名が入力されていた。BISMAL では種小名が異なるメンガイモドキ *Spondylus pacificus* Reeve, 1856、及び注釈にある和名のチイロメンガイ *Spondylus sanguineus* Dunker, 1852 がシノニムとされ、和名なし *Spondylus anacanthus* Mawe, 1823 が適用されていた(WoRMS でも有効)。ミサカエショウジョウカズラ *Spondylus (Eleutherospondylos) imperialis* Chenu, 1843 は、BISMAL では和名がなかったが、学名検索で和名と命名年が異なるミヒカリショウジョウ *Spondylus imperialis* Chenu, 1845 が出て来た。WoRMS では、更に命名年が異なる *Spondylus imperialis* Chenu, 1844 が有効学名であった。

アメリカナミマガシワ *Anomia simplex* は BISMAL に和名も学名もなく、WoRMS では *Anomia simplex* d'Orbigny, 1853 と *Anomia simplex* Mabile, 1895 の2つの学名が出て来た。*Anomia simplex* Mabile, 1895 は「invalid: junior homonym of *Anomia simplex* d'Orbigny, 1842」とされ(1842 と 1853 の2つの命名年が存在し、WoRMS 内部で混乱しているようである)、種小名が異なる *Anomia peruviana* d'Orbigny, 1846 が有効学名であった。アメリカ合衆国フロリダ州サニベルという採集地情報、及び原記載であることから、*Anomia simplex* d'Orbigny, 1853 を有効学名と判断した。イシ

ガキ *Dimya filipina* Bartsch, 1913 は BISMAL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Neotreta filipina* (Bartsch, 1913)が有効学名であった(新属記載による変更: *Neotreta* Waller, 2012)。

イタボガキ *Ostrea denselamellosa* Lischke, 1869 は、1 点にナミマガシワ科 Anomiidae、2 点にイタボガキ科 Ostreidae と入力されていた(前者は誤入力)。フランスガキ *Ostrea angulata* は BISMAL に和名はなかったが、学名検索で属名が異なる *Crassostrea angulata* (Lamarck, 1819)が出て来た。WoRMS では、この学名はシノニムになっていて、属名が異なる *Magallana angulata* (Lamarck, 1819)が適用されていた。マガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg, 1793)は BISMAL と一致したが、WoRMS ではシノニムとされ、属名が異なる *Magallana gigas* (Thunberg, 1793)が有効学名であった。イワガキ *Crassostrea nippona* (Seki, 1934)とスミノエガキ *Crassostrea ariakensis* (Fujita, 1913)も同じく、*Magallana nippona* (Seki, 1934)と *Magallana ariakensis* (Fujita, 1913)が有効学名で、これらは新属(*Magallana* Salvi & Mariottini, 2016)が記載されたことによる変更であった。ノコギリガキ *Dendostrea crenulifera* (Sowerby, 1871)に、BISMAL では命名年が異なる *Dendostrea crenulifera* (Sowerby, 1878)が適用されていたが、WoRMS では収蔵資料 DB と同じ *Dendostrea crenulifera* (Sowerby, 1871)がシノニムになっていた。更に命名者名が明確化された *Dendostrea crenulifera* (G. B. Sowerby II, 1871)もシノニムとされ、種小名が異なる *Dendostrea sandwichensis* (G. B. Sowerby II, 1871)が有効学名であった(BISMAL の命名年 1878 は、どこにも出て来ない)。

シロザル *Chama brassica* Reeve, 1847 は、BISMAL では和名がなく、学名の検索で和名と命名年が異なるシロキクザル *Chama brassica* Reeve, 1846 というシノニムが出て来て、和名なし *Chama chinensis* Chenu, 1846 が適用されていた。この学名は WoRMS ではシノニムとされ、*Chama brassica* Reeve, 1847 が有効学

名であった。BISMaL でシノニムとされている学名の命名年(1846)がそもそもの間違いで、収蔵資料 DB の学名が正しかったことになる。これで和名も復活し、シロキクザル *Chama brassica* Reeve, 1847 を有効な和名・学名と結論付けた。ウニザル *Chama* (*Echinochama*) *cornuta* Conard は、WoRMS では命名者名が異なる *Chama cornuta* Dillwyn, 1817 がシノニムで、属名と種小名が異なる *Pseudochama gryphina* (Lamarck, 1819) が有効学名であった。ソメワケガシラ *Chama semipurpurata* Lischke, 1870 は肥後・後藤(1993)と一致したが、奥谷(2000)や BISMaL に和名も学名もなく、WoRMS では種小名が異なる *Chama dunkeri* Lischke, 1870 が有効学名であった。収蔵資料 DB や肥後・後藤(1993)では、この学名にケイトウガイの和名が入っていた[この和名も学名も、奥谷(2000)や BISMaL にない]。佐々木 (2019)で、同じ表の別々の箇所にケイトウガイ *Chama dunkeri* Lischke, 1870 とソメワケガシラ *Chama dunkeri* Lischke, 1870 が存在することから、和名が混乱していると判断し、和名なし *Chama dunkeri* Lischke, 1870 を適用した。

ウバトリガイ *Serripes groenlandicus* (Bruguere, 1789)は奥谷(2000)や BISMaL と一致したが(命名者名は Bruguière)、WoRMS では命名者名と命名年が異なる *Serripes groenlandicus* (Mohr, 1786)が有効学名であった(原記載は *Cardium groenlandicum* Mohr, 1786)。フロリダハナザル *Trigonicardium medium* Linnaeus は、WoRMS や WMSDB でも検索できなかった。*Trigonicardium* という属名で検索可能な DB はなく、語尾変化させた *Trigonicardia* を WoRMS で曖昧検索すると、*Trigoniocardia* Dall, 1900 が出来た(*Trigonicardium* は *i* と *c* の間に *o* が抜けている誤入力)。この属の direct children を見て行くと、種小名の語尾が異なる *Trigoniocardia media* (Linnaeus, 1758)がシノニムで、属名が異なる *Americardia media* (Linnaeus, 1758)が適用されていた。アメリカスベリザルガイ *Laericardium laevigatum* (*Laevicardium* の誤入力)は、

WoRMS では *Laevicardium laevigatum* (Linnaeus, 1758) がシノニムで出て来て、属名が異なり、種小名が語尾変化した *Fulvia laevigata* (Linnaeus, 1758)が有効学名であった。ゴウシュウザルガイ *Laevicardium ricketti* は BISMaL や WoRMS では検索できず、WMSDB では属名が異なる *Fulvia ricketti* E. Donovan, 1825 がシノニムとされ、種小名が異なる *Fulvia tenuicostata* (J. B. P. A. Lamarck, 1819)が有効学名であった(WoRMS でも有効)。リュウキュウヒシガイ *Fragum loochooanum* Kira, 1959 は BISMaL で和名検索できず、学名検索でオキナワヒシガイ *Fragum loochooanum* Kira, 1959 がシノニムで出て来て、種小名が異なる、和名なし *Fragum scruposum* (Deshayes, 1855)が有効学名であった(WoRMS でも有効)。モクハチアオイ *Lunulicardia retusa* (Linnaeus, 1758)は BISMaL と一致したが、WoRMS では命名年が異なる *Lunulicardia retusa* (Linnaeus, 1767)適用されていた(原記載は *Cardium retusum* Linnaeus, 1767)。

ベニハマグリ *Macra* (*Macra*) *achatina* Holten, 1802 に、BISMaL では種小名が異なる *Macra ornata* Gray, 1837 が適用されていたが、WoRMS では収蔵資料 DB と種小名が同じ *Macra achatina* Holten, 1802 が適用されていた。チゴバカガイ *Macra* (*Macra*) *nipponica* Kuroda & Habe, 1971 は肥後・後藤(1993)と一致したが、奥谷(2000)や BISMaL では、命名者名が明確化された *Macra nipponica* Kuroda & Habe in Kuroda, Habe & Oyama, 1971 が適用されていた。WoRMS では命名者名に違和感を覚える *Macra nipponica* Kuroda & Habe in Kuroda & al., 1971 が適用されていて、WMSDB でも WoRMS と同じ *Macra nipponica* J. T. Kuroda & T. Habe in J. T. Kuroda & al., 1971 が有効学名になっていた(& al.は、et al.と使うものと理解しているが、いずれにしても命名者名は全員分が記述されるべき性質のものであった)。GBIF では、*Macra nipponica* Kuroda & Habe, 1971 が有効学名になっていて、不思議なことにソースが WoRMS になっていた

(WoRMS の命名者名は記述ミスという判断か?)。チゴバカガイ *Maetra nipponica* Kuroda & Habe, 1971 を有効な和名・学名と結論付けた。アリソガイ *Coelomaetra antiquata* (Spengler, 1802)は BISMAL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Maetra antiquata* Spengler, 1802 が適用されていた。

チヨノハナガイ *Raetellops pulchella* (Adams & Reeve, 1850)に、BISMAL では種小名の語尾が男性形に変化した *Raetellops pulchellus* (Adams & Reeve, 1850)が適用されていたが、WoRMS では収蔵資料DBと同じ学名がシノニムになっていて(BISMAL の *pulchellus* は語尾変化間違い)、属名が異なる *Raeta pulchella* (Adams & Reeve, 1850)が有効学名であった。ヒメニッコウガイ *Tellinella staurella* (Lamarck, 1818)は BISMAL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Tellinella cruciata* (Spengler, 1798)が有効学名であった。ノコギリダイミョウ *Tellinella spengleri* (Gmelin, 1791)は、WoRMS ではシノニムになっていて、属名と種小名が異なる *Dallitellina rostrata* (Linnaeus, 1758)が適用されていた。

オオモノノハナ *Macoma (Macoma) praetexta* (Martens, 1865)は BISMAL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Praetextellina praetexta* (Martens, 1865)が有効学名であった。トンガリベニガイ *Pharaonella rostrata* (Linnaeus, 1758)も BISMAL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Dallitellina rostrata* (Linnaeus, 1758)が適用されていた。ダイミョウガイ *Pharaonella perna* (Spengler, 1798)も BISMAL と一致したが、WoRMS では新属として記載された *Tonganaella perna* (Spengler, 1798)が有効学名であった(*Tonganaella* M. Huber, Langleit & Kreipl, 2015)。オオシマダイミョウガイ *Pharaonella tongana* (Quoy & Gaimard, 1835)に、BISMAL ではオオシマダイミョウが適用され、WoRMS では新属の *Tonganaella tongana* (Quoy & Gaimard, 1835)が適用されていた。マルシラトリモドキ *Heteromacoma irus oyamai* Kira, 1959 は

WoRMS に学名がなく、WMSDB では *Heteromacoma oyamai* T. Kira, 1959 がシノニムとされ、*Heteromacoma irus* (S. C. T. Hanley, 1845)が適用されていた。この学名は BISMAL や WoRMS でも有効で、シラトリモドキの和名が付いていた。トクナガシラトリ *Merisca (Pistris) tokunagai* (Ikebe, 1936)に、BISMAL では *Pistris tokunagai* (Ikebe, 1936)が適用されていたが、この学名は WoRMS ではシノニムで、属名が異なる *Ardeamya tokunagai* (Ikebe, 1936)が有効学名であった。

クモリザクラ *Angulus vestalioides* (Yokoyama, 1920)は奥谷(2000)や BISMAL と一致したが、WoRMS では新属の *Hanleyanus vestalioides* (Yokoyama, 1920)が適用されていた(*Hanleyanus* M. Huber, Langleit & Kreipl, 2015)。アコヤザクラ *Merisca (Pistris) margaritina* (Lamarck, 1818)に、BISMAL では属名が異なる *Tellina margaritina* Lamarck, 1818 が適用されていたが、WoRMS では更に属名が異なり、種小名が語尾変化した *Tellinides margaritinus* (Lamarck, 1818)が適用されていた。コメザクラ *Semelangulus tokubei* Habe, 1961 (*tokubeii* の誤入力)は、BISMAL では属名が異なる *Exotica tokubeii* (Habe, 1961)が有効とされていたが、この学名は WoRMS ではシノニムとされ、属名が異なる *Tellina tokubeii* (Habe, 1961)を経て、収蔵資料DBと同じ属名を持つ *Semelangulus tokubeii* Habe, 1961 に戻っていた。モモノハナ *Moerella jedoensis* (Lischke, 1872)の和名に、BISMAL ではモモノハナガイ/エドザクラが適用されていたが、学名はそのままであった。WoRMS では、種小名が異なる *Moerella hilaris* (Hanley, 1844)が有効学名であった。

ウズザクラ *Nitidotellina minuta* (Lischke, 1872)は BISMAL と一致したが、WoRMS ではシノニムになっていて、種小名が異なる *Nitidotellina lischkei* M. Huber, Langleit & Kreipl, 2015 が新種記載されていた。カバザクラ *Nitidotellina iridella* (Martens, 1865)も BISMAL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Nitidotellina valtonis* (Hanley, 1844)が有効学名であっ

た。サギガイ *Rexithaerus sector* Oyama, 1950 に、BISMaL では属名が異なる *Macoma sector* Oyama, 1950 が適用されていたが、WoRMS ではシノニムとされ、収蔵資料 DB と同じ学名を持つ *Rexithaerus sector* (Oyama, 1950)が適用されていた[原記載は *Macoma (Rexithaerus) sector* Oyama, 1950]。ヒラザクラ *Tellinides ovalis* Sowerby, 1825 に、BISMaL では命名者名が明確化された *Tellinides ovalis* (G. B. Sowerby I, 1825)が適用されていた。WoRMS では、*Tellinides ovalis* G. B. Sowerby I, 1825 がシノニムとされ、種小名が異なる *Tellinides striatus* (Gmelin, 1791)が有効学名であった(原記載は *Solen striatus* Gmelin, 1791)。

ナガイソシジミ *Nuttallia commoda* (Yokoyama, 1925)は BISMaL と一致したが、この学名は WoRMS になく、WMSDB 検索で属名が異なる *Gari commoda* (M. Yokoyama, 1925)が出て来た(WoRMS でも有効)。問題はシノニムの扱いで、WMSDB では *Nuttallia comoda* M. Yokoyama, 1925 が原記載のシノニムで、WoRMS では *Psammobia commoda* Yokoyama, 1925 が原記載のシノニムであった。ミヒカリマスホウ *Psammobia radiata* (Philippi, 1844)は、WoRMS では属名と命名年が異なり、命名者名が明確化された *Gari radiata* (Dunker in Philippi, 1845)が適用されていた(原記載は *Psammobia radiata* Dunker in Philippi, 1845)。マスホウガイ *Psammotaea elongata* (Lamarck, 1818)は BISMaL に和名がなく、*Psammotaea elongata* の曖昧検索で、和名と属名が異なり、亜属名も微妙に異なる(*Psammotaea* と *Psammotaena*)、マスオガイ *Gari (Psammotaena) elongata* (Lamarck, 1818)がシノニムで出て来て、和名なし *Gari elongata* (Lamarck, 1818)が適用されていた(WoRMS でも有効)。WoRMS のシノニムに BISMaL の *Gari (Psammotaena) elongata* (Lamarck, 1818)は存在せず、収蔵資料 DB と同じ *Psammotaea elongata* (Lamarck, 1818)があった。リュウキュウマスホウ *Asaphis violascens* (Forskål, 1775) (Forsskål の誤入力)は肥後・後藤(1993)と一致したが、

奥谷(2000)や BISMaL では和名がリュウキュウマスオになっていた。WoRMS では、命名者名が明確化された *Asaphis violascens* (Forsskål in Niebuhr, 1775)が適用されていた。ジャックナイフガイ *Ensis directus* は、WoRMS では *Ensis directus* (Conrad, 1844) sensu Abbott, 1954 がシノニムで、種小名が異なる *Ensis leei* M. Huber, 2015 が新種記載されていた。

マングローブシジミ *Geloina erosa* (Lightfoot, 1786)は肥後・後藤(1993)と一致したが、この和名は BISMaL になく、学名検索で、和名と命名者名が異なるヤエヤマヒルギシジミ *Geloina erosa* (Solander, 1786)が出て来た。この学名そのものは WoRMS になく、*Geloina erosa* auct. non Lightfoot という初めて見る学名がシノニムとされ(原記載は *Venus erosa* Lightfoot, 1786)、種小名が異なる *Geloina expansa* (Mousson, 1849)が有効学名であった(原記載は *Cyrena expansa* Mousson, 1849)。BISMaL では、この学名にリュウキュウヒルギシジミの和名が付けられていて、この和名・学名を持つ種は収蔵資料 DB にも存在した。WoRMS の見解に従えば、BISMaL のヤエヤマヒルギシジミ *Geloina erosa* (Solander, 1786)は和名も学名も消失し、リュウキュウヒルギシジミ *Geloina expansa* (Mousson, 1849)に吸収されたことになる。ヤマトシジミ *Corbicula (Corbicula) japonica* Prime, 1864 に、BISMaL では *Corbicula japonica* Prime, 1864 が適用されていた。この学名は WoRMS の *Corbicula* 属に存在せず、曖昧検索で別の種 *Corbicula javanica* (Mousson, 1849)が出て来てしまう(WMSDB や MUSSELp でも有効)。WMSDB では *Corbicula japonica* T. Prime, 1864 が適用されていたが、MUSSELp では命名年が異なる *Corbicula japonica* Prime, 1867 が有効学名であった[マシジミ *Corbicula (Corbiculina) leana* Prime, 1864 も同様で、*Corbicula leana* Prime, 1867 を適用]。

エゾヌノメアサリ *Callithaca adamsi* (Reeve, 1863)は BISMaL と一致したが、WoRMS では属名が異なる *Protocallithaca adamsi* (Reeve, 1863)が有効学名で

あった。メオニアサリ *Protothaca (Novathaca) schencki* (Nomura, 1937)に、BISMaL では *Protothaca schencki* (Nomura, 1937)が適用されていたが、WoRMS では *Protothaca schencki* Nomura, 1937 がシノニムで、属名と種小名が異なる *Leukoma decussata* (Deshayes, 1853) が有効学名であった。アラスジケマン *Gafrarium tumidum* Roding, 1798 (Röding の誤入力)は、BISMaL ではアラスジケマンガイ *Gafrarium tumidum* Röding, 1798 がシノニムとされ、和名と種小名が異なるホソスジイナミガイ *Gafrarium pectinatum* (Linnaeus, 1758) が有効な和名・学名であった(WoRMS でも有効。同じ和名・学名を持つ種は収蔵資料 DB に 2 点ある)。イナミガイ *Gafrarium dispar* (Dillwyn, 1817)は BISMaL と一致したが、WoRMS では命名者名と命名年が異なる *Gafrarium dispar* (Holten, 1802)が有効学名であった(原記載は *Venus dispar* Holten, 1802。 *Venus dispar* Dillwyn, 1817 というシノニムも存在する)。ヒメアサリ *Ruditapes variegatus* (Sowerby, 1852)は、BISMaL では命名者名が明確化された *Ruditapes variegatus* (G. B. Sowerby II, 1852)がシノニムになっていて、属名と種小名が異なる、和名なし *Venerupis aspera* (Quoy & Gaimard, 1835)が適用されていた(WoRMS でも有効)。イヨスダレ *Paphia undulata* (Born, 1778)は BISMaL と一致したが、WoRMS では属名が異なり、種小名が語尾変化した *Paratapes undulatus* (Born, 1778)が有効学名であった。

オキアサリ *Gomphina (Macridiscus) aequilatera* (Sowerby, 1825)は肥後・後藤(1993)と一致したが、BISMaL では *Macridiscus semicancellata* (Koch in Philippi, 1843)が適用されていた。WoRMS では種小名が語尾変化した *Macridiscus semicancellatus* (Koch in Philippi, 1843)がシノニムで、更に種小名が異なる *Macridiscus donacinus* (Megerle von Mühlfeld, 1811)が有効学名であった。コタマガイ *Gomphina melanaegis* Römer, 1861 (*melanaegis* と Römer の誤入力)に、BISMaL では属名が異なる *Macridiscus melanaegis*

(Römer, 1861)が適用されていた。WoRMS では、命名年が異なる *Macridiscus melanaegis* (Römer, 1860)がシノニムで、種小名が異なる *Macridiscus aequilatera* (G. B. Sowerby I, 1825)が有効学名であった。この学名のシノニムに *Gomphina aequilatera* (G. B. Sowerby I, 1825)が存在することから、前述のオキアサリの学名 *Gomphina (Macridiscus) aequilatera* (Sowerby, 1825)は、肥後・後藤(1993)の記載ミスと判断した。

エゾワスレ *Callista (Ezocallista) brevisiphonata* Carpenter, 1865 は、BISMaL では命名年が異なる *Callista (Ezocallista) brevisiphonata* (Carpenter, 1864)がシノニムとされ、*Callista brevisiphonata* (Carpenter, 1864)が適用されていた。WoRMS では、*Ezocallista brevisiphonata* (Carpenter, 1864)が有効学名であった。オキナマツカゼ *Irus (Irus) ishibashianus* Kira, 1959 は肥後・後藤(1993)と一致し、亜属が取れた学名は奥谷(2000)や BISMaL と一致したが、WoRMS では命名者名と命名年が異なる *Irus ishibashianus* Kuroda & Habe, 1952 が有効学名であった(WMSDB でも有効。Kira, 1959 のシノニムは存在しない)。ハネマツカゼ *Irus (Irus) macrophyllus* (Deshayes, 1854)に、BISMaL では命名年が異なる *Irus macrophyllus* (Deshayes, 1853)が適用されていたが、この学名は WoRMS ではシノニムとされ、種小名が異なる *Irus irus* (Linnaeus, 1758)が適用されていた。ハナガイ *Placamen tiara* (Dillwyn, 1817)は BISMaL と一致したが、WoRMS では種小名が異なる *Placamen lamellatum* (Röding, 1798)が有効学名であった。オドリハナガイ *Placamen calophylla* は、WoRMS 検索で *Placamen calophylla* [sic] (incorrect gender ending)と出て来て、種小名の語尾が異なる *Placamen calophyllum* (Philippi, 1836)がシノニムになっていた。種小名が異なる *Placamen lamellatum* (Röding, 1798)が有効学名で、前述のように、この学名を持つ種にはハナガイの和名が付けられていた。

ヒメカノコアサリ *Veremolpa micra* (Pilsbry, 1904)は BISMaL と一致したが、この学名は WoRMS になか

った。WMSDBでは*Veremolpa micra* H. A. Pilsbry, 1904がシノニムとされ、属名と種小名が異なる*Timoclea scabra* (S. C. T. Hanley, 1845)が適用されていた(WoRMSでも有効)。ムラクモハマグリ*Pitar (Pitarina) affine* (Gmelin, 1791)に、BISMaLでは種小名が異なる*Pitar variegatus* Kuroda & Habe in Kuroda, Habe & Oyama, 1971が適用されていたが、WoRMSでは種小名の語尾が男性形から中性形に変化した*Pitar variegatum* Kuroda & Habe in Kuroda & al., 1971がシノニムになっていた(前述のように、& al.はet al.と理解しているが、命名者名は全員分が記述されるべきであった)。WoRMSでは、更に種小名が異なる*Pitar inflatus* (G. B. Sowerby II, 1851)が適用されていた。ウスハマグリ*Pitar (Pitarina) japonicum* Kuroda & Kawamoto, 1956は、BISMaLでは命名者名が明確化された*Pitar (Pitarina) japonicum* Kuroda & Kawamoto in Kawamoto, 1956がシノニムになっていて(WoRMSでシノニムに含まれる学名の命名者名は、総じてKuroda & Kawamoto in Kawamoto & Tanabe)、種小名が異なる*Pitar kurodai* Matsubara, 2007が新種記載されていた。WoRMSでは、この学名もシノニムとされ、属名が変更された*Aphrodora kurodai* (Matsubara, 2007)が有効学名であった。

チャイロサラサガイ*Lioconcha lorenziana* (Dillwyn)は、WoRMSに学名がなく、WMSDBでは属名が異なる*Venus lorenziana* L. W. Dillwyn, 1817がシノニムとされ、種小名が変更された*Lioconcha castrensis* (C. Linnaeus, 1758)が有効学名であった。この学名はBISMaLやWoRMSでも有効で、マルオミナエシの和名が付いていた(同じ和名・学名は収蔵資料DBに存在する)。フスマガイ*Clementia (Clementia) vatheleti* Mabilite, 1901は、WoRMSの曖昧検索では種小名が微妙に異なる*Clementia vatheliti* Mabilite, 1901がシノニムで出て来て、種小名が異なる*Clementia papyracea* (Gmelin, 1791)が有効学名であった(BISMaLでは、この学名にカミブスマの和名が付いていた)。

モモイロトマヤ*Cardita nodulosa* Lamarck, 1819はBISMaLと一致したが、WoRMSでは属名が異なる*Megacardita nodulosa* (Lamarck, 1819)が適用されていた。クロマルフミガイ*Cyclocardia ferruginea* (Clessin, 1888) (*ferruginea*の誤入力)はBISMaLと一致したが、WoRMSやWMSDBでは種小名が異なる*Cyclocardia nipponensis* M. Huber, 2010が新種記載されていた。ヤグラモシオ*Bathystormus foveolatus* (Sowerby, 1870) (*Bathystormus*の誤入力)は、WoRMSに学名がなかった。WMSDBでは命名者名が明確化され、命名年が異なる*Bathystormus foveolatus* G. B. II Sowerby, 1842がシノニムで、属名と命名年が異なり、種小名が語尾変化した*Crenocrassatella foveolata* (G. B. II Sowerby, 1870)が適用されていた(WoRMSでは命名者名がG. B. Sowerby II)。ハマシジミ*Anapella pinguis*はWoRMSに学名がなく、WMSDBでは*Anapella pinguis* J. C. H. Crosse & P. H. Fischer, 1864がシノニムで出て来て、種小名が異なる*Anapella cycladea* (J. B. P. A. Lamarck, 1818)が適用されていた(WoRMSでも有効)。

コウホネガイ*Meiocardia tetragona* (A. Adams & Reeve, 1850)は、BISMaLではコウボネガイ*Meiocardia samarangiae* Bernard et al., 1993が新種記載されていたが、命名者名の書き方(Bernard et al.)に違和感を覚えた。WoRMSでは、*Meiocardia samarangiae* Bernard, Cai & Morton, 1993と命名者名が明確化されていた。ハマチドリガイ*Spondervilia bisculpta* (Gould, 1861)はWoRMSに学名がなく、WMSDBではmodified Genus *Spondervilia* to *Ervilia*と出て来て、属名が異なる*Ervilia bisculpta* A. A. Gould, 1861が適用されていた(WoRMSでも有効)。セミアサリ*Claudiconcha japonica* (Dunker, 1882)はBISMaLと一致したが、この学名はWoRMSになく、WMSDBでは属名が異なる*Petricola japonica* R. W. Dunker, 1882が出て来た(WoRMSでも有効)。ウネナシトマヤガイ*Trapezium (Neotrapezium) liratum* (Reeve, 1843)の学名はBISMaLではシノニムとされ、*Trapezium liratum* (Reeve, 1843)

が適用されていたが、WoRMS では *Neotrapezium liratum* (Reeve, 1843)が適用されていた。

クチベニデ *Anisocorbula venusta* (Gould, 1861)は、肥後・後藤(1993)や奥谷(2000)と一致した(BISMaL で命名者名が Gould になっているのは明らかな記載ミス)。WoRMS では、属名が異なる *Corbula venusta* Gould, 1861 が有効学名であった(WMSDB でも有効。BISMaL では、*Corbula venusta* Gould, 1861 がシノニム)。アサヒキヌタレガイ *Petrasma japonica* (Dunker, 1882)に、BISMaL では属名が異なる *Acharax japonica* (Dunker, 1882)が適用されていたが、この学名は WoRMS ではシノニムになっていて、更に属名が異なる *Solemya japonica* Dunker, 1882 が適用されていた。和名がない *Cyclopecten greenlandicus* Sowerby 1842 は WoRMS では命名者名が明確化された *Cyclopecten greenlandicus* (G. B. Sowerby II, 1842)がシノニムとされ、属名が異なる *Similipecten greenlandicus* (G. B. Sowerby II, 1842)が有効学名であった。

5 頭足綱／掘足綱／多板綱

目名の誤入力(o が余分に挿入)が見られた(e.g., オウムガイ目 Nautiloidea を Nautilida 目に訂正)。目名の変更が見られた(e.g., コウイカ目 Sepioidea の一部が Spirulida 目に)。ツツイカ目 Teuthoidea に、BISMaL では Teuthoidea が適用されていたが、WoRMS では Myopsida と Oegopsida が適用されていた(BISMaL では、閉眼亜目 Myopsida と開眼亜目 Oegopsida)。科名も、新科の記載で変更されていた[e.g., マダコ科 Octopodidae が Enterocropodidae 科に(Enterocropodidae Strugnell, Norman, Vecchione, Guzik & Allcock, 2014)]。

アオリイカ *Sepioteuthis lessoniana* Lesson, 1830 は肥後・後藤(1993)、奥谷(2000)、及び BISMaL と一致したが、WoRMS では命名者名と命名年が異なる *Sepioteuthis lessoniana* d'Orbigny, 1826 が適用されていた。イイダコ *Octopus ocellatus* Gray, 1849 に BISMaL では属名と種小名が異なる *Amphioctopus fangsiao*

(d'Orbigny, 1839)が適用されていたが、WoRMS では命名者名が後に確定された、*Amphioctopus fangsiao* (d'Orbigny [in Férussac & d'Orbigny], 1839–1841)が有効学名であった。ミズダコ *Octopus (Enterocropus) dofleini* (Wulker, 1910) (Wuelker、または Wülker の誤入力)は、BISMaL では *Octopus dofleini* (Wuelker, 1911) がシノニムになっていて、属名が異なる *Parocropus dofleini* (Wuelker, 1910)が適用されていた。WoRMS では、この学名がシノニムで(命名者名は Wülker)、更に属名が異なる *Enterocropus dofleini* (Wülker, 1910)が有効学名であった。

チヂミタコブネ *Argonauta bottgeri* Maltzan, 1888 (*boettgeri* の誤入力)に、BISMaL では和名と命名年が異なるチヂミタコブネ／コナハダダコブネ *Argonauta boettgeri* Maltzan, 1881 が適用されていた。この学名は WoRMS ではシノニムとされ、種小名が異なる *Argonauta hians* Lightfoot, 1786 が適用されていた。この学名に、BISMaL ではタコブネの和名が与えられていた[収蔵資料 DB では、タコブネ *Argonauta hians* (Lightfoot, 1786)と入力されている]。WoRMS の見解に従えば、BISMaL のチヂミタコブネ／コナハダダコブネ *Argonauta boettgeri* Maltzan, 1881 は、タコブネ *Argonauta hians* Lightfoot, 1786 に吸収されてしまったことになる。

フトツノガイ *Dentalium hirasei* は WoRMS に学名がなく、収蔵資料 DB の備考欄にある別和名のニシキツノガイで検索すると、BISMaL では属名と種小名が異なる *Pictodentalium formosum* (A. Adams & Reeve, 1850)が出て来た(WoRMS でも有効)。収蔵資料DBに、ニシキツノガイ *Pictodentalium formosum* (A. Adams & Reeve, 1850)が別に存在した。マルツノガイ *Pictodentalium vermerdi* (Sowerby, 1860)は奥谷(2000)と一致したが、BISMaL では種小名が微妙に異なる *Pictodentalium vermedei* (Sowerby, 1860)が適用され、WoRMS では命名者名が明確化された *Pictodentalium vermedei* (Hanley in G. B. Sowerby II, 1860)が適用され

ていた。リュウキュウツノガイ *Graptacme aciculum* (Gould, 1859)は WoRMS に学名がなく、WMSDB では属名が異なる *Dentalium aciculum* A. A. Gould, 1859 が出て来た(WoRMS でも有効)。

ミガキツノガイ *Laevidentalium longitrossum* (Reeve, 1842)は肥後・後藤(1993)と一致したが、どの DB でも和名や学名がなかった。WMSDB で *Laevidentalium* を検索すると *Laevidentalium longitrossum* L. A. Reeve, 1843 がシノニムで出て来て、属名が異なり、種小名が語尾変化した *Antalis longitrosra* (L. A. Reeve, 1842) が適用されていた(この学名は WoRMS でも有効)。肥後・後藤(1993)の種小名の記述ミスそのまま担当者が収蔵資料 DB に入力したせいで、*longitrossum* の *r* が抜けて *longitrossum* になり、どの DB でも検出不能になっていた。トヤマツノガイ *Laevidentalium toyamaense* (Kuroda & Kikuchi, 1933)に、肥後・後藤(1993)では種小名が微妙に異なる *toyamense* が適用されていたが、WoRMS では学名がなかった。WMSDB では、種小名が肥後・後藤(1993)と同じ *Laevidentalium toyamense* (J. T. Kuroda & T. Kikuchi, 1933)がシノニムとされ、属名が異なり、種小名が元に戻った *Rhabdus toyamaense* (J. T. Kuroda & T. Kikuchi, 1933)が有効学名であった(WoRMS でも有効)。マボロシツノガイ *Laevidentalium sominium* Okutani, 1964 は BISMAL と一致したが、WoRMS では属名が変更された *Episiphon sominium* (Okutani, 1964)が有効学名であった。

ハコダテヒザラガイ *Ischnochiton hakodadensis* Pilsbry, 1893 は BISMAL と一致したが、WoRMS では命名者名が異なる *Ischnochiton hakodadensis* Carpenter, 1893 が有効学名であった[原記載は *Ischnochiton (Ischnoradsia) hakodadensis* Carpenter in Pilsbry, 1893]。ヒザラガイ *Acanthopleura japonica* (Lischke, 1873)は奥谷(2000)や BISMAL と一致したが、肥後・後藤(1993)や WoRMS では属名が異なる *Liolophura japonica* (Lischke, 1873)が適用されていた。キタノババガゼ(キタノババガゼの誤入力) *Placiphorella borealis* Berry,

1917 は奥谷(2000)と一致したが、BISMAL では命名者名と命名年が未入力で、WoRMS では命名者名と命名年が異なる *Placiphorella borealis* Pilsbry, 1893 が適用されていた(WMSDB でも有効)。ヒメケハダヒザラガイ *Acanthochitona rubrolineatus* (Lischke, 1873)に、BISMAL や WoRMS では *Acanthochitona achates* (Gould, 1859)が適用されていた。収蔵資料 DB にコケハダヒザラガイ *Acanthochitona achates* (Gould, 1859)があり、和名をヒメケハダヒザラガイに変更した。

6 昆虫綱(チョウ目)

科名変更が少し見られた(e.g., シジミチョウ科 Lycaenidae の一部がシジミタテハ科 Riodinidae に)。KONCHU でマダラチョウ科 Danaidae やジャノメチョウ科 Satyridae、テングチョウ科 Libytheidae が適用されている科が、LepIndex や GBIF ではタテハチョウ科 Nymphalidae になっていて、これを採用した。

和名がない *Drupadia ravindra moorei* (Distant, 1882) は、GloBIS に学名がなかった。*Drupadia* 属には、*Drupadia ravindra* (Horsfield, 1829)と *Drupadia moorei* (Distant, 1882)の2種が存在し、後者を有効学名と判断した。和名がない *Drupadia theda thesmia* (Hewitson, 1863)も、GloBIS に学名がなかった。*Drupadia* 属に *Drupadia theda* (Felder, 1862)は存在するが、*thesmia* に該当する種はなかった。GloBIS で *thesmia* を検索すると、属名が異なる *Biduanda thesmia* (Hewitson, 1863)が出て来た。命名者名と命名年が同じであることから、*Biduanda thesmia* (Hewitson, 1863)を有効学名と判断した。同じ和名(ウラフチベニシジミ)で学名が異なる *Heliophorus epicles* (Godart, 1824)と *Heliophorus ila matsumurae* (Fruhstorfer)は、GloBIS や GBIF では、*Heliophorus epicles* (Godart, 1824)と *Heliophorus ila matsumurae* (Fruhstorfer, 1908)の2つの学名が存在した。Google 検索では、ウラフチベニシジミの和名に、どちらかの学名が使われていた。収蔵資料 DB の採集地が台湾なので、後者を有効学名と判断した。

和名がない *Remelana jangala travana* (Hewitson, 1865)は、GloBIS では *Remelana jangala* (Horsfield, 1829)に9 亜種が存在したが、*travana* の亜種小名はなかった。*travana* で検索すると、属名が異なる *Tajuria travana* (Hewitson, 1865)が出て来た。タイワンフタオツバメ *Spindasis lohita formosanus* (Moore)は、GloBIS では *Spindasis lohita* (Horsfield, 1829)の6 亜種にfで始まる亜種小名はなかった。National Checklist of Taiwan では、亜種小名の語尾が変化した *Spindasis lohita formosana* (Moore, 1877)が有効学名で、臺灣雙尾小灰蝶の台湾名から、タイワンフタオツバメの和名も有効と判断した。和名がない *Tajuria megistia thria* de Nicéville, 1896 (*thya* の誤入力)は、GloBIS では *Tajuria* 属に *megistia* の種小名がなく、亜種から種へと昇格し、命名年が異なる *Tajuria thya* de Nicéville, 1892 が出て来た。ゴイシシジミの和名には亜種小名が異なる学名が2つ入力されていた[*Taraka hamada hamada* (H. Druce, 1875); *Taraka hamada thalaba* Matsumura, 1927]。KONCHU では前者の学名が有効で、後者の学名はなかった。GloBIS に後者の学名で命名者名と命名年が異なる *Taraka hamada thalaba* Fruhstorfer, 1922 が存在したが、ゴイシシジミとは別亜種と考えられた。ゴイシシジミ *Taraka hamada hamada* (H. Druce, 1875)を有効な和名・学名と判断した。

和名がない *Tarucus callinara* Butler, 1886 は、GloBIS では *Tarucus* 属が存在せず、*callinara* の種小名で検索すると、*Tarucus callinara* Butler, 1886 の有効学名が出て来た(GloBIS では、*Tarucus* から *Tarucus* を類推することが出来ない)。ウラミスジシジミ *Wagimo signatus signatus* (Butler, 1882)は、KONCHU の学名検索で、和名が異なるダイセンシジミ *Wagimo signatus* (Butler, [1882])が出て来た。私は、この和名・学名を有効と判断し、S-Net への登録に使用する予定であるが、前の担当者はウラミスジシジミ *Wagimo signatus signatus* (Butler, 1882)を登録している。クロモンベニツルギシジミ *Yasoda pitane* de Nicéville, 1893 の学名

は、GloBIS と GBIF で有効であった。和名を Google で引用符検索すると、収蔵資料DBのみヒットした。収蔵資料 DB の画像を複数のサイトで検討したところ、学名と画像が一致したので、和名なし(旧クロモンベニツルギシジミ) *Yasoda pitane* de Nicéville, 1893 を有効な和名・学名と結論付けた。

アケビコノハの和名には属名が異なる2つの学名が入力されていた[*Adris tyrannus* (Guenee); *Eudocyma tyrannus* (Guenée, 1852)]。KONCHU では *Adris tyrannus* (Guenee, 1852)が、LepIndex では *Adris tyrannus* Guenée, 1852 が適用されていた。ホソチョウ *Acraea issoria formosana* (Fruhstorfer)は、National Checklist of Taiwan や GBIF では *Acraea issoria formosana* (Fruhstorfer, 1912)が有効学名であった。和名がない *Adelpha erotia* (*erotica* の誤入力)は、LepIndex では *Adelpha* 属の一部が *Limnitis* 属のシノニムで出て来たが、シノニムの中に *erotia* や *erotica* の種小名はなかった。*Limnitis* で検索すると、*Limnitis erotica* Hewitson, 1847 が見つかった。*Adelpha phylaca* (*phylaca* の誤入力)も同様で、属名が異なる *Limnitis phylaca* Bates, 1866 が有効学名であった。和名がない *Aeria euromedia pacifica* は、LepIndex ではどの組み合わせでも検索できなかった。GBIF で *Aeria euromedia pacifica* を検索すると、種小名の綴りが異なる *Aeria eurimedia pacifica* Godman & Salvin, 1879 が出て来た(LepIndex でも有効)。ヤイロタテハ *Agatasa calydonia calydonia* (Hewitson, 1854)は、一見して種小名か亜種小名の誤入力が疑われるものであった。LepIndex に *Agatasa* 属はなく、亜種小名の *calydonia* で種小名を検索すると、属名と命名年が異なる *Prothoe calydonia* Hewitson, 1855 が有効学名で出て来た。サルダナパルスアグリウス *Agrius sardanapalus* は、LepIndex に *Agrius* 属はなく、種小名の *sardanapalus* で検索すると、属名が異なる *Agrius sardanapalus* Bates, 1860 が有効学名で出て来た。

シロミスジ *Athyma perius perius* (Linnaeus)に、KONCHU では *Athyma perius perius* (Linnaeus, 1758)が

適用されていたが、LepIndex では属名が異なる原記載の *Parathyma perius* Linnaeus, 1758 が有効学名であった(*Athyma* 属は、LepIndex では *Pantoporia* 属、*Parathyma* 属、*Phaedyma* 属のシノニム)。和名がない *Athyma cama* Moore, 1858 は LepIndex に学名がなく、属名でも種小名でも検索不能であった。GBIF では、命名者名と命名年のない *Athyma cama* が有効学名であった。ヤエヤマイチモンジには 2 つの学名が入力されていた[*Athyma selenophora bahula* Moore, 1858; *Athyma selenophora laela* (Fruhstorfer)]。KONCHU では、亜種小名が 2 つと異なる *Athyma selenophora ishiana* Fruhstorfer, 1899 が適用されていた。LepIndex や GBIF では、更に属名が異なる *Parathyma selenophora ishiana* Fruhstorfer, 1899 が有効学名であった。

アカヘリタテハ *Biblis hyperia* は、LepIndex の *Biblis* 属に *hyperia* の種小名はなく、*hyperia* の種小名検索で属名が異なる *Didonis hyperia* Cramer, 1797 がシノニムで出て来て、属名が元に戻り、種小名が異なる *Biblis biblis* Fabricius, 1775 が有効学名であった。ムラサキウズマキタテハ *Callicore pastazza* は、LepIndex では *Callicore* の属名や *pastazza* の種小名に一致するものはなかった。GBIF に *Callicore* 属は存在したが、この属の 3 種に *pastazza* の種小名はなかった。GBIF でベニオビウズマキタテハ *Callicore cynosura* の学名を検索すると、*Callicore cynosura* (Doubleday, 1847) がシノニムで出て来て、属名が異なる *Catagramma cynosura* Doubleday, 1847 が有効学名であった。GBIF で *Catagramma* 属を見て行くと、*pastazza* の亜種小名を持つ *Catagramma excelsior pastazza* Staudinger, 1886 が見つかかり(LepIndex でも有効)、前述のムラサキウズマキタテハを適用した。

アカガギレチョウ *Cethosia chrysippe paraestabilis* (Fruhstorfer) (*praestabilis* の誤入力)は、和名に違和感を覚え、Google 検索では収蔵資料 DB だけヒットした。LepIndex で *Cethosia chrysippe paraestabilis* に一致する学名はなく、*Cethosia* 属を見て行くと、種小名

が異なる *Cethosia cydippe praestabilis* Fruhstorfer, 1909 が出て来た。キベリフタオチョウ *Charaxas orilus* Butler, 1869 は、LepIndex に学名がなかった。*Charaxas* の属名に一致するものはなく、*orilus* の種小名で検索すると、属名が微妙に異なる *Charaxes orilus* Butler, 1869 の有効学名が出て来た。

同じと思われる学名に、2 つの和名が入力されていた[アキラアイシガキチョウ *Cyrestis acilia tervisia* (Fruhstorfer); シロオビイシガキチョウ *Cyrestis acilia tervisia* Fruhstorfer, 1913]。LepIndex の *Cyrestis* 属に *acilia* の種小名はなく、*tervisia* の亜種小名検索で、種小名が異なる *Cyrestis eximia tervisia* Fruhstorfer, 1913 が出て来た。和名がない *Cyrestis cocles earli* Distant, 1883 は、LepIndex では *Cyrestis cocles* Fabricius, 1787 に *earli* の亜種小名を持つ亜種はなく、*earli* の種小名で検索すると、*Cyrestis earli* Distant, 1883 が出て来た。この学名はシノニムになっていて、種小名が異なる *Cyrestis cocles* Fabricius, 1787 が有効学名であった。ツマグロイシガキチョウには 2 つの学名が入っていた[*Cyrestis nivea* (Zinken, 1831); *Cyrestis nivea nivalis* C. & R. Felder, 1867]。LepIndex では、命名者名が異なる *Cyrestis nivea* Zinken-Sommer, 1831、及び *Cyrestis nivea nivalis* Felder, 1867 が有効学名であった。これら 2 つの学名に、和名なし(旧ツマグロイシガキチョウ)を適用した。イシガケチョウにも 2 つの学名が入力されていた[*Cyrestis thyodamas mabella* Fruhstorfer, 1898 の 3 点(採集地は日本); *Cyrestis thyodamas formosana* (Fruhstorfer)の 1 点(台湾)]。KONCHU では前者の学名が有効で、分布域に琉球列島は含まれるが、台湾は含まれなかった。LepIndex や GBIF では両種の学名が有効で、後者には *Cyrestis thyodamas formosana* Fruhstorfer, 1898 が適用されていた(分布域は台湾に集中)。イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* Fruhstorfer, 1898、及び和名なし(旧イシガケチョウ) *Cyrestis thyodamas formosana* Fruhstorfer, 1898 を有効な和名・学名と判断した。

カバマダラには、属名や亜種小名が異なる3つの学名が入力されていた[*Anosia chrysippus chrysippus* (Linnaeus, 1758); *Danaus chrysippus chrysippus* (Linnaeus, 1758); *Danaus chrysippus alcippoides* (Moore, 1883)]。KONCHU では属名が異なるカバマダラ *Anosia chrysippus chrysippus* (Linnaeus, 1758)が適用されていたが、LepIndex では *Danaus (Anosia) chrysippus* Linnaeus, 1758 が適用され、これとは別に *Danaus (Anosia) chrysippus alcippoides* Moore, 1883 も存在した。GBIF は、LepIndex を含む CoL を情報源としながらも、*Danaus chrysippus* (Linnaeus, 1758)と *Danaus chrysippus alcippoides* Moore, 1883 を適用していた。属名の変遷を見ると、*Anosia* から *Danaus (Anosia)* を経て *Danaus* に変更された(収蔵資料 DB の学名が最新)と考えられた。カバマダラ *Danaus chrysippus* (Linnaeus, 1758)と和名なし(旧カバマダラ) *Danaus chrysippus alcippoides* Moore, 1883 を有効な和名・学名と判断した。オオカバマダラ *Danaus plexippus* (Linnaeus, 1758)は GBIF と一致し、この学名を有効と判断したが、KONCHU では *Danaus plexippus plexippus* (Linnaeus, 1758)が、LepIndex では *Danaus (Anosia) plexippus* Linnaeus, 1758 が適用されていた(LepIndex は GBIF の情報源だが、独自の判断で直しているようである)。

スジグロカバマダラには、属名が異なる2つの学名が入力されていた[*Anosia genutia genutia* (Cramer); *Danaus genutia genutia* (Cramer, 1779)]。KONCHU では属名が異なる *Salatura genutia genutia* (Cramer, [1779])が適用され、LepIndex では *Danaus (Anosia) genutia* Cramer, 1779 と、命名者名が異なる *Danaus (Anosia) melanippus edmondii* Bougaunville, 1837 が適用されていた。同様に、スジグロシロマダラ *Danaus melanippus edmondii* (Lesson, 1837)に、KONCHU では属名が異なる *Salatura melanippus edmondii* (Lesson, 1837)が適用されていた。GBIF では、KONCHU の *Salatura* 属は *Danaus* 属のシノニムになっていて、

Danaus genutia Cramer, 1779 と *Danaus melanippus edmondii* Bougaunville, 1837 が有効学名であった。

KONCHU ではスミナガシ八重山亜種 *Dichorragia nesimachus ishigakianus* Shirozu, 1952 とスミナガシ本土亜種 *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer, 1903 に分けられているが、どちらも収蔵資料 DB のスミナガシ [*Dichorragia nesimachus*; *Dichorragia nesimachus formosanus* (Fruhstorfer); *Dichorragia nesimachus machater* Fruhstorfer, 1903 (*machates* と Fruhstorfer の誤入力)]とは一致しなかった。LepIndex で *Dichorragia nesimachus* を検索して出て来た学名から、和名なし(旧スミナガシ) *Dichorragia nesimachus* Boisduval, 1836、和名なし(旧スミナガシ) *Dichorragia nesimachus formosanus* Fruhstorfer, 1909、和名なし(旧スミナガシ) *Dichorragia nesimachus machates* Fruhstorfer, 1903 を適用した。

イワサキコノハには2つの学名が入力されていた [*Doleschallia bisaltide* (Cramer, 1777)の5点(採集地はベトナム); *Doleschallia bisaltide pratipa* C. & R. Felder, 1860 の1点(情報なし)]。KONCHU では、イワサキコノハの学名に、種小名と亜種小名が異なる *Doleschallia polibeta philippensis* Fruhstorfer 1912 が適用されていた。LepIndex や GBIF では *Doleschallia* 属に *polibeta* の種小名はなく、*philippensis* の亜種小名検索で *Doleschallia bisaltide philippensis* Fruhstorfer, 1899 が出て来た。和名優先なら、イワサキコノハ *Doleschallia bisaltide philippensis* Fruhstorfer, 1899 を有効な和名・学名とするのが妥当と思われたが、この学名を持つ種は KONCHU や GBIF では台湾、フィリピン、南西諸島にしか分布しない。収蔵資料 DB の和名は間違いで、命名年が異なる、和名なし(旧イワサキコノハ) *Doleschallia bisaltide* Cramer, 1779 と、和名なし(旧イワサキコノハ) *Doleschallia bisaltide pratipa* Felder, 1860 を有効な和名・学名と判断した。

ルリモンジャノメには3つの学名が入力されていた [*Elymnias hypermnestra* (Linnaeus, 1763); *Elymnias*

hypermnestra agina Fruhstorfer, 1902; *Elymnias hypermnestra hainana* (Moore)]. LepIndex では、*Elymnias hypermnestra* Linnaeus, 1763 が適用されていたが、intraspecific taxa に *hainana* や *agina* の亜種小名は存在しなかった。GBIF では *Elymnias hypermnestra hainana* Moore, 1878 (情報源は National Checklist of Taiwan) と、種小名が異なり、命名年がない *Elymnias nigrescens agina* Fruhstorfer が承認されていた。

コレルリマダラには、*Euploea core godartii* (Lucas) (採集地はタイ) と *Euploea core godartii* Lucas, 1853 (ベトナム) の学名が入力されていた。KONCHU では、和名が異なるガランピマダラ *Euploea core godartii* Lucas, 1853 が適用されていた。この亜種の分布域が「Okinawa Honto Is.; Taiwan, Indochina」であるのに対し、収蔵資料 DB の採集地はタイとベトナムであった。LepIndex や GBIF では、*Euploea godartii* Lucas, 1853 がシノニムとされ、*Euploea core* Cramer, 1780 が有効学名であった。この種の分布域に収蔵資料 DB の採集地が含まれ、ガランピマダラの分布域とは異なることから、和名なし(旧コレルリマダラ) *Euploea core* Cramer, 1780 を有効な和名・学名と判断した(収蔵資料 DB に *Euploea core* Cramer, 1780 と学名だけ入力され、採集地情報のない種があった)。マルバネルリマダラ *Euploea eunice leucogonis* (Butler, 1879) (採集地はマレーシアとインドネシア) は、KONCHU ではマルバネルリマダラフィリピン亜種 *Euploea eunice eunice* (Quoy, 1815) と、マルバネルリマダラ台湾亜種 *Euploea eunice hobsoni* (Butler, [1878]) に分けられていた。これらの亜種の分布域が収蔵資料 DB の採集地とは異なっているので、LepIndex で属名に *Euploea*、亜種小名に *leucogonis* を入れて検索すると、種小名が異なる *Euploea leucostictos leucogonis* Butler, 1879 が出て来た[和名なし(旧マルバネルリマダラ)を適用。GBIF でも有効]。エインドビールリマダラ *Euploea eyndhovii distinctissima* (Fruhstorfer) (*distinctivissima* の誤入力) は、LepIndex で属名に *Euploea*、種小名に

eyndhovii を入れて検索すると、*Euploea eyndhovii* Felder & Felder, 1865 が出て来た。*distinctissima* の亜種小名は見当たらず、*Euploea (Crastia) distinctivissima* Fruhstorfer, 1911 がシノニムであった。

クルーギールリマダラ *Euploea klugii erichsonii* (C. & R. Felder) に、KONCHU では *Euploea klugii erichsonii* C. & R. Felder, [1865] が適用されていた。LepIndex で *Euploea klugii* を入れて検索すると、*Euploea klugii* Moore & Horsfield, 1857 が出て来たが、この種の inraspecific taxa に *erichsonii* の亜種小名はなかった。属名に *Euploea*、種小名に *erichsonii* を入れて検索すると、*Euploea erichsonii* Felder & Felder, 1865 が出て来た。KONCHU では、クルーギールリマダラ *Euploea erichsonii* Felder & Felder, 1865 を有効な和名・学名とすべきだが、この種の分布域が「Amami Okinoerabu Is.; Sumatra, Indochina, Malay Pen.」になっていることから、収蔵資料 DB の標本はクルーギールリマダラではないと判断した(採集地はタイ)。採集地が GBIF の分布域と一致したことから、和名なし(旧クルーギールリマダラ) *Euploea klugii* Moore & Horsfield, 1857 を有効な和名・学名と結論付けた(収蔵資料 DB には、命名者名と命名年が異なる *Euploea klugii* Moore, 1858 が存在)。ミダムスルリマダラには、2つの学名が入力されていた[*Euploea midamus* (Linnaeus, 1758); *Euploea midamus clorinde* (Staudinger): いずれも採集地はフィリピンのパラワン]。KONCHU では、ミダムスルリマダラ *Euploea midamus* Linnaeus, 1758 が適用されていたが、分布域が「Okinawa Honto Is.; Taiwan, China (South)」で、収蔵資料 DB の採集地(フィリピン)は含まれなかった。LepIndex で属名に *Euploea*、亜種小名に *clorinde* を入れて検索すると、種小名が異なる *Euploea simillima clorinde* Staudinger, 1889 が出て来た。GBIF で分布域を見ると、収蔵資料 DB の資料はミダムスルリマダラとは異なることから、和名なし(旧ミダムスルリマダラ) *Euploea simillima clorinde* Staudinger, 1889 を適用した。

ツمامラサキマダラには3つの学名が入力されていた[*Euploea mulciber barsine* (Fruhstorfer, 1904) (採集地は2点が台湾、1点がインドネシア); *Euploea mulciber mulciber* (Cramer, 1777) (9点がベトナム、2点は情報なし); *Euploea mulciber paupera* (Staudinger) の7点(フィリピン)]。KONCHUでは、ツمامラサキマダラ *Euploea mulciber barsine* Fruhstorfer, 1904 が有効とされていたが、分布域が「Honshu, Kyushu, Iriomote Is.; Taiwan」で、収蔵資料DBの採集地(インドネシア)は含まれなかった。LepIndex で学名を、GBIF で学名と分布域を調べ、採集地がインドネシアのツمامラサキマダラ *Euploea mulciber barsine* (Fruhstorfer, 1904)を和名なし(旧ツمامラサキマダラ) *Euploea mulciber* Cramer, 1777 に変更した。GBIF の分布域から、採集地が台湾の亜種2点にツمامラサキマダラ *Euploea mulciber barsine* Fruhstorfer, 1904 を、ベトナムの種9点と採集地情報のない種2点に和名なし(旧ツمامラサキマダラ) *Euploea mulciber* Cramer, 1777 を、フィリピンの亜種7点に和名なし(旧ツمامラサキマダラ) *Euploea mulciber paupera* Staudinger, 1889 を適用した。

和名がない *Heliconius antiochus antiochus* Staudinger, 1897 は、LepIndex や GBIF では命名者名と命名年が異なる *Heliconius antiochus* Linnaeus, 1767 が有効学名であった。和名がない *Heliconius erato demophoon* Ménétriés, 1855 は、LepIndex では *Heliconius erato* Linnaeus, 1758 の infraspecific taxa に *demophoon* の亜種小名はなかった。属名に *Heliconius* を、亜種小名に *demophoon* を入れて検索すると、種小名と命名年が異なる *Heliconius petiveranus demophoon* Ménétriés, 1857 の有効学名が出て来た。和名がない *Heliconius erato hydara* Hewison, 1867 (Hewitson の誤入力)も、LepIndex では *Heliconius erato* Linnaeus, 1758 の infraspecific taxa に *hydara* の亜種小名はなかった。属名に *Heliconius* を、種小名に *hydara* を入れて検索すると、*Heliconius hydara* Hewitson, 1867 の有効学名が

出て来た。*Heliconius melpomene* f. *rosina* Boisduval, 1870 と学名だけ入力されている変種(型?)は、LepIndex では *Heliconius melpomene* Linnaeus, 1758 の infraspecific taxa に *rosina* の亜種小名はなかった。属名に *Heliconius* を、亜種小名に *rosina* を入れて検索すると、種小名が異なる *Heliconius amaryllis rosina* Boisduval, 1870 が出て来た。ヘリコニウスメルポメーネドクチョウ *Heliconius melpomene martinae* Cast & Le Crom, 2012 と入力されている亜種は、LepIndex や GBIF では *Heliconius melpomene* Linnaeus, 1758 の infraspecific taxa に *martinae* の亜種小名は存在しなかった。Google の引用符検索で、まったく同じ学名が Butterflies of America (2019)で見つかった。問題は、このサイトが信頼できるかどうかで、Holotype と Paratype を表示していることから信用に値するサイトと判断し、和名なし(旧ヘリコニウスメルポメーネドクチョウ) *Heliconius melpomene martinae* Cast & Le Crom, 2012 を有効な和名・学名と結論付けた。

リュウキュウムラサキには2つの学名が入力されていた[*Hypolimnas bolina* (Linnaeus, 1758) (採集地は3点が日本、1点がベトナム); *Hypolimnas bolina kezia* (Butler)の1点(台湾)]。ポリナムラサキ(和名が種小名のカタカナ表記であるのならば、ポリナムラサキと記述するのが正解)には、リュウキュウムラサキと属名と種小名が同じ2つの学名が入力されていた[*Hypolimnas bolina nerina* (Fabricius)の7点(採集地はパプアニューギニア); *Hypolimnas bolina philippensis* (Butler)の8点(フィリピン)]。KONCHU ではリュウキュウムラサキの和名には3つの学名が適用されていた[*Hypolimnas bolina* (Linnaeus, 1758); *Hypolimnas bolina* f. *bolina* (Linnaeus, 1758); *Hypolimnas bolina* f. *jacantha* (Drury, 1773)]。他に、リュウキュウムラサキ台湾型 *Hypolimnas bolina* f. *kezia* (Butler, [1878])とリュウキュウムラサキフィリピン型 *Hypolimnas bolina* f. *philippensis* (Butler, 1874)があった。*Hypolimnas bolina* (Linnaeus, 1758)の分布域として「Amami Oshima Is.,

Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.; China, Taiwan, Philippines, Indochina, Indo-Australian Region」が記載されていたが、これ以外の学名には分布域の記載がなかった。LepIndex では型が取れ、*Hypolimnas bolina* Linnaeus, 1758 の 44 infraspecific taxa に 2 つの亜種が存在した(*Hypolimnas bolina kezia* Butler, 1877; *Hypolimnas bolina philippensis* Butler, 1874)。GBIF では *Hypolimnas bolina nerina* (Fabricius, 1775) が Doubtful になっていて、*Hypolimnas bolina nerina* (Fabricius) が Accepted になっていた(2 つの学名の違いは命名年の有無だけ?)。Atlas of Living Australia (2019) では、前者の学名に 2,136 の記録が見つかった。リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* Linnaeus, 1758、リュウキュウムラサキ台湾亜種 *Hypolimnas bolina kezia* Butler, 1877、和名なし(旧ボリナムラサキ) *Hypolimnas bolina nerina* (Fabricius, 1775)、リュウキュウムラサキフィリピン亜種 *Hypolimnas bolina philippensis* Butler, 1874 を有効な和名・学名と結論付けた。

クジャクチョウには 2 つの学名が入力されていた [*Inachis io* (Linnaeus, 1758) (採集地は台湾); *Inachis io geisha* (Stichel, 1908) (日本)]。KONCHU では後者の学名がそのまま適用され、分布域は「Hokkaido, Rebun Is., Rishiri Is., Honshu; Kurile Is. (South)」になっていた。LepIndex では *Inachis io* で検索できず、種小名に *io* を亜種小名に *geisha* を入れて検索すると、属名が異なる *Nymphalis io geisha* Stichel, 1908 が出て来た。*Nymphalis io* で検索すると *Nymphalis io* Linnaeus, 1758 が出て来て、採集地が台湾であることから、この学名に和名なし(旧クジャクチョウ)を適用した(GBIF では、2019 年 8 月 7 日の時点で分布域に台湾のプロットはない)。

アトリテスタテハモドキ *Junonia atlites atlites* (Linnaeus, 1763) (採集地は 1 点がベトナム、1 点がタイ)は、KONCHU では和名が異なり、ハイイロタテハモドキ *Junonia atlites* (Linnaeus, 1763) が適用されて

いた(LepIndex では、*Junonia atlites* Linnaeus, 1763 を適用)。分布域は、KONCHU では「Ishigaki Is., Iriomote Is.; Oriental」になっていて、Oriental が何を指すのか不明だが、GBIF ではベトナムとタイが分布域に含まれていた。和名と学名の組み合わせが異なるイワサキタテハモドキ *Junonia hedonia ida* (Cramer, 1776) の 3 点(採集地は日本)、ヘドニアタテハモドキ *Junonia hesonia ida* (Cramer) (*hedonia* の誤入力。7 点がフィリピン、1 点が台湾)、ヘドニアタテハモドキ *Junonia hesonia zelima* (Fabricius) の 2 点(パプアニューギニア)が入力されていた。KONCHU では亜種小名が異なるイワサキタテハモドキ *Junonia hedonia iwasaki* (Matsumura, 1915) が適用され、分布域は「Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.; Taiwan, Philippines」になっていた。LepIndex や GBIF では、*Junonia hedonia* Linnaeus, 1764 の infraspecific taxa に *Junonia hedonia ida* Cramer, 1776 (分布域はフィリピン・マレーシア・インドネシア)、*Junonia hedonia iwasaki* Matsumura, 1915 (分布域はフィリピン)、*Junonia hedonia zelima* Fabricius, 1775 (分布域はパプアニューギニア・オーストラリア)が含まれ、適用すべき亜種小名の判断が難しかった。どのケースでも 2019 年 8 月 8 日の時点で GBIF の分布域から日本と台湾が外れることから、これを未登録によるものと考え、パプアニューギニアで採集した 2 点の資料に和名なし(旧ヘドニアタテハモドキ) *Junonia hedonia zelima* Fabricius, 1775 を、それ以外にイワサキタテハモドキ *Junonia hedonia iwasaki* Matsumura, 1915 を適用した。クロタテハモドキ *Junonia iphita iphita* (Cramer, 1779) (採集地は 2 点がベトナム、1 点は情報なし)に、KONCHU では *Junonia iphita* Cramer, 1779 が適用されていた(分布域は「Ishigaki Is.; Taiwan, China (South)」)。LepIndex や GBIF では命名年が異なる *Junonia iphita* Cramer, 1782 が適用され、ベトナムも分布域に含まれていることから、クロタテハモドキ *Junonia iphita* Cramer, 1782 を有効な和名・学名と判断した。

コノハチヨウには 2 つの学名が入力されていた [Kallima inachus formosana (Fruhstorfer) の 1 点(採集地は台湾); Kallima inachus (Doyère, 1840) の 2 点(1 点には「獅子」と入力されていて、台湾には獅子頭山という地名がある)]。KONCHU では亜種小名が異なるコノハチヨウ *Kallima inachus eucerca* Fruhstorfer, 1898 が有効学名で、分布域は「Amami Okinoerabu Is., Okinawa Honto Is., Ishigaki Is., Iriomote Is.」になっていたが(LepIndex や GBIF でも有効)、GBIF の分布域には台湾が含まれていた。収蔵資料 DB では和名がない *Kallima inachis formosana* (*inachus* の誤入力)があり、*Kallima inachus formosana* (Fruhstorfer) がコノハチヨウ *Kallima inachus eucerca* Fruhstorfer, 1898 に変更されたことから、この学名を適用することが出来たかもしれない。採集地がインドであることから、和名なし *Kallima inachus* Boisduval, 1836 を適用した[収蔵資料 DB の *Kallima inachus* (Doyère, 1840) は、命名者名と命名年の間違いで、シノニムに出て来ない]。

ルリタテハには 2 つの学名が入力されていた [*Kaniska canace* (Linnaeus, 1763) (採集地は 1 点が新潟県、4 点は情報なし); *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold, 1824) (1 点が大阪府、1 点が群馬県)]。他に和名がない *Kaniska canace canace* (Linnaeus, 1763) が 1 点あった(ベトナム)。KONCHU では、ルリタテハ沖縄亜種 *Kaniska canace ishima* (Fruhstorfer, [1899]) とルリタテハ本土亜種 *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold, 1824) に分けられていた。これらの分布域から、大阪府・群馬県・新潟県で採集された 3 点にルリタテハ本土亜種 *Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold, 1824) を適用するのが妥当と思われた。LepIndex では *Kaniska* 属が存在せず、*Vanessa* 属が適用されていて、*Vanessa canace* Linnaeus, 1763 と *Vanessa canace ishima* Fruhstorfer, 1899 が有効学名であった(*nojaponicum* の亜種小名は存在しない)。GBIF では、*Kaniska* Moore, 1899 の属名は有効だが、種を含まなかった。これら 8 点の総てに、ルリタテハ

Vanessa canace Linnaeus, 1763 を適用した。

キマダラモドキ *Kirinia fentoni* (Butler, 1877) に、KONCHU では *Kirinia epaminondas* (Staudinger, 1887) が適用されていた。LepIndex に *Kirinia* 属は存在せず、属名が異なる *Pararge epaminondas* Staudinger, 1887 がシノニムになっていて、更に種小名が異なる *Pararge epimenides* Ménétriés, 1859 が有効学名であった。アサマイチモンジ *Ladoga glorifica glorifica* (Fruhstorfer, 1909) に、LepIndex では種小名が異なる *Ladoga camilla glorifica* Fruhstorfer, 1909 が適用されていた。和名がない *Lexias pardalis* (Moore, 1878) (採集地はベトナム) は、LepIndex を含む CoL に *Lexias* の属名が存在せず、*pardalis* の種小名で検索すると、2019 年 8 月 10 日の時点で 274 records が出て来た。GBIF では *Lexias* Boisduval, 1832 が Doubtful で出て来て、種を含まなかった。*Lexias* 属を *Euthalia* 属のシノニムとする種があるので、試しに *Euthalia pardalis* で検索すると、収蔵資料 DB とは属名や命名者名、命名年が異なる *Euphalia pardalis* Pascoe, 1870 が有効学名であった(分布域はベトナムで、GBIF 独自の承認)。

オオイチモンジ *Limenitis populi jezoensis* Matsumura (Linnaeus, 1919) は、明らかな命名者名の間違いであった(リンネが 150 年以上も生きていたことになる)。KONCHU では、*Limenitis populi jezoensis* Matsumura, 1919 が有効学名であった(LepIndex でも有効)。ウラジャノメ *Lopinga achine jezoensis* (Matsumura, 1919) (採集地は北海道) は、KONCHU ではウラジャノメ北海道亜種 *Lopinga achine jezoensis* (Matsumura, 1919) が有効な和名・学名であった [*achinejezoensis* は、種小名 (*achine*) と亜種小名 (*jezoensis*) が結合し、亜種小名が誤入力されたもの]。LepIndex に *Lopinga* 属は存在せず、*achine jezoensis* の組み合わせで種や亜種を特定するのは困難であった。GBIF に *Lopinga achine* (Scopoli, 1763) は存在するが(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)、亜種を含まなかった。亜種への分化は未確定と考えられ、ウラジャノメ *Lopinga achine*

(Scopoli, 1763)を有効な和名・学名とした。キオヒトラフトンボマダラ *Mechanitis messenoides deceptus* は属名と種小名が結合していると推測され、LepIndex で属名に *Mechanitis* を、亜種小名に *deceptus* を入れて検索すると、種小名が異なる *Mechanitis mazaesus deceptus* Butler, 1873 が出て来た。

ヒメギフチョウには3つの学名が入力されていた[Luehdorfia *puziloi* (Erschoff, 1872)の10点(採集地は日本とだけ入力); *Luehdorfia puziloi inexpecta* Sheljuzhko, 1913 (1点が山梨県、2点が鳥取県、2点が山形県); *Luehdorfia puziloi yessoensis* Rothschild, 1918の1点(北海道)]。KONCHU ではヒメギフチョウ本州亜種 *Luehdorfia puziloi inexpecta* Sheljuzhko, 1913 とヒメギフチョウ北海道亜種 *Luehdorfia puziloi yessoensis* Rothschild, 1918 に分けられていたが、これらの亜種はGloBIS や GBIF ではシノニムとされ、*Luehdorfia puziloi* (Erschoff, 1872)が有効学名であった。

クロコノマチョウには3つの学名が入力されていた[*Melanitis phedima oitensis* Matsumura, 1919 (採集地は、高知県・静岡県・和歌山県); *Melanitis phedima polishana* (Fruhstorfer) (台湾); *Melanitis phedima abdullae* Distant, 1883 (情報なし)]。KONCHU では *Melanitis phedima oitensis* Matsumura, 1919 が適用され、分布域は「Honshu, Shikoku, Kyushu, Tsushima Is., Goto Is., Koshiki Is., Tanegashima Is., Yakushima Is., Amami Oshima Is., Amami Okinoerabu Is., Okinawa Honto Is.」であった。LepIndex で *Melanitis phedima* を検索すると、*Melanitis phedima* Cramer, 1782 と *Melanitis phedima morosa* Corbet, 1942 が出て来て、*Melanitis phedima oitensis* Matsumura, 1919 (KONCHU の学名) はなかった。GBIF では、他に *Melanitis phedima polishana* Fruhstorfer, 1908 が存在し(情報源は National Checklist of Taiwan)、分布域は台湾であった。台湾から採集された資料に和名なし(旧クロコノマチョウ) *Melanitis phedima polishana* Fruhstorfer, 1908 を、それ以外にクロコノマチョウ *Melanitis phedima* Cramer,

1782 を適用した。

ウスイロヒョウモンモドキ *Melitaea protomedia* Ménétériès, 1858 に KONCHU では *Melitaea protomedia protomedia* Menetries, 1858 が適用されていたが、LepIndex では収蔵資料 DB と命名年が異なる *Melitaea protomedia* Ménétériès, 1859 がシノニムとされ(è と é の違いだが、GBIF では Ménétériès を適用)、種小名が異なる *Melitaea diamina* Lang, 1789 が有効学名であった。ジャノメチョウ *Minois dryas bipunctata* (Motschulsky, 1860)は KONCHU と一致したが、LepIndex ではどの組み合わせでも検索できず、GBIF では *Minois dryas* (Scopoli, 1763)が適用されていた(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)。この種の分布域が KONCHU の分布域を包含していることから、ジャノメチョウ *Minois dryas* (Scopoli, 1763)を有効な和名・学名と判断した。

モルフオモドキ *Morphotenaris schoenbergi* (Fruhstorfer, 1893)は、LepIndex に *Morphotenaris* の属名が存在せず、種小名に *schoenbergi* を入れて検索すると、タテハチョウ科 Nymphalidae で可能性のある種として、*Stibochiona schoenbergi* Honrath, 1889 が出て来た。亜種小名に *schoenbergi* を入れて検索すると、*Herona sumatrana schoenbergi* Staudinger, 1890、及び *Mynes eucosmetus schoenbergi* Röber, 1894 が出て来た。いずれも正しい学名とするには疑わしく、GBIF で *Morphotenaris schoenbergi* を入れて検索すると、*Morphotenaris* Fruhstorfer, 1893 がシノニムで出て来て(情報源は、Interim Register of Marine and Nonmarine Genera)、*Taenaris* Hübner, 1819 が有効な属名であった。この属の immediate children には、*Taenaris schonbergi* Fruhstorfer, 1893 の有効学名が存在した(綴りが微妙に異なる *schoenbergi* と *schonbergi* の種小名、または亜種小名を持つ種が存在する。収蔵資料 DB の *schoenbergi* は *schonbergi* の誤入力)。

リュウキュウヒメジャノメ *Mycalesis madjicosa amamiana* Butler, 1868 は、KONCHU では命名者名と

命名年が異なるリュウキュウヒメジャノメ奄美沖縄亜種 *Mycalesis madjicosa amamiana* Fujioka, 1975 と、リュウキュウヒメジャノメ八重山亜種 *Mycalesis madjicosa madjicosa* (Butler, 1868)に分けられていた。採集地が沖縄県とだけ入力されていることから、亜種の適用は困難と思われたが、LepIndex や GBIF に *madjicosa* の種小名は存在しなかった。この種が *Mycalesis* 属のどの種に相当するのかを GBIF の分布図から特定しようと試みたが、種数が多すぎて無理であった。Wikipedia にはリュウキュウヒメジャノメ *Mycalesis madjicosa* Butler, 1868 とあり、信頼できる出典が明示してあったので(Savelle, 2019)、この和名・学名を適用した。

エルタテハ *Nymphalis l-album samurai* (Fruhstorfer, 1907)に、KONCHU では種小名が異なる *Nymphalis vaualbum samurai* (Fruhstorfer, 1907)が適用されていた。LepIndex で可能性のある学名は *Polygonia l-album* Esper, 1785 だが、GBIF では、3つの学名がシノニムで出て来て[*Nymphalis l-album* (Esper, 1781); *Papilio l-album* Esper, 1780; *Papilio vaualbum* Denis & Schiffmuller, 1775]、*Nymphalis vaualbum* (Denis & Schiffmuller, 1775)が適用されていた(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)。Schiffmuller の綴りに違和感を覚え、Google 検索したところ、Schiffmüller が正しい命名者名と思われた。この検索過程で「*Nymphalis vaualbum* (Denis & Schiffmüller, 1775)が裸名(nomen nudum)なので、*Nymphalis l-album* (Esper, 1781)に取って代わられるべき」という見解があった(Iowa State University, 2019)。エルタテハ *Nymphalis l-album* (Esper, 1781)を有効な和名・学名と結論付けた。

トラフタテハには3つの学名が入力されていた[*Parthenos sylvia* (Cramer) (採集地は1点がフィリピン、2点がパプアニューギニア); *Parthenos sylvia* (Cramer, 1775)の2点(ベトナム); *Parthenos sylvia lilacinus* Butler, 1879 (1点がマレーシア、1点は情報なし)]。KONCHU では種小名が異なるトラフタテハ *Parthenos sylva*

philippensis Fruhstorfer, 1898 が適用され、分布域は「Okinawa Honto Is.; Philippines」であった。LepIndex に *Parthenos* 属は見当たらず、当初は属名が異なる3つの学名が適用可能と考えた(採集地がフィリピンの亜種に *Kallima sylvia philippensis* Fruhstorfer, 1898; パプアニューギニアとベトナムの種に *Kallima sylvia* Cramer, 1776; マレーシアと情報なしの亜種に *Kallima sylvia lilacinus* Butler, 1879)。これら3つの学名は GBIF と一致したが、GBIF では *Kallima* 属の分布域は示されなかった。試しに収蔵資料 DB で最も情報量が多い *Parthenos sylvia lilacinus* を入れて検索すると、命名者名と命名年を持たない *Parthenos sylvia* の有効学名が出て来た(情報源はなく、GBIF への直接の登録による)。この種の immediate children に、KONCHU の *Parthenos sylva philippensis* Fruhstorfer, 1898 とは種小名と命名年が異なる、*Parthenos sylvia philippensis* Fruhstorfer, 1899 が適用されていた(情報源は National Checklist of Taiwan)。GBIF では、フィリピン産と思われる同じ種で、属名と命名年が異なる2つの学名が承認されていることになる[*Kallima sylvia philippensis* Fruhstorfer, 1898; *Parthenos sylvia philippensis* Fruhstorfer, 1899]。トラフタテハ *Parthenos sylvia philippensis* Fruhstorfer, 1899 (フィリピン)と、和名なし(旧トラフタテハ) *Parthenos sylvia* (フィリピン以外)を有効な和名・学名と結論付けた。

和名がない *Phyciodes ianthe* は、LepIndex では *Phyciodes ianthe* Fabricius, 1781 がシノニムになっていて、属名と種小名が(命名者名と命名年も異なる *Janatella hera* Cramer, 1782 が有効学名であった。和名がない *Pteronymia aquleia* は LepIndex では *Pteronymia* 属に *aquleia* の種小名や亜種小名はなく、Google の引用符検索で収蔵資料 DB だけがヒットした。GBIF で *Pteronymia aquleia* を検索すると、*Pteronymia apuleia* Hewitson, 1868 が出て来た(*aquleia* は *apuleia* の誤入力。LepIndex では、*p* と *q* の綴りが異なるだけで検索不能)。和名がない *Ragadia makuta siponta* Fruhstorfer,

1911 は、LepIndex や GBIF の *Ragadia* 属に *makuta* や *siponta* の種小名や亜種小名はなかった。Google で *Ragadia makuta siponta* Fruhstorfer, 1911 を引用符検索すると、この学名をチェックリストに掲載している論文が見つかり(Aqilah and Maryati, 2019)、今後の DB への登録を見越して有効学名と判断した。

ギンボシヒョウモンには 2 つの学名が入力されていた[*Speyeria aglaja* (Linnaeus, 1758) (採集地は日本とだけ入力); *Speyeria aglaja fortuna* (Janson, 1877) (群馬県)]。KONCHU ではギンボシヒョウモン北海道亜種 *Speyeria aglaja basalis* (Matsumura, 1908) と、ギンボシヒョウモン本州亜種 *Speyeria aglaja fortuna* (Janson, 1877) に分けられていて、後者は採集地が群馬県のものと一致した。KONCHU の亜種名は採集地が日本とだけ入力されている種には適用できないので、LepIndex で収蔵資料 DB の学名 *Speyeria aglaja* (Linnaeus, 1758) が正しいかどうかを確かめたところ、種小名の綴りが微妙に異なり(*i* と *j* の違い)、*Speyeria aglaia* Linnaeus, 1758 が有効学名であった(KONCHU でも同じ間違い)。GBIF で分布域を見ると、この種は日本周辺とヨーロッパに集中して生息し、ひとつの種として扱って良いものか否かの判断が難しかったが、ギンボシヒョウモン *Speyeria aglaia* Linnaeus, 1758 とギンボシヒョウモン本州亜種 *Speyeria aglaia fortuna* Janson, 1877 を有効な和名・学名と結論付けた。

シロオビワモンチョウ *Thauria aliris pseudaliris* Butler, 1877 に、LepIndex では命名年が特殊な *Thauria aliris pseudaliris* Butler, 1877 & 1878 が適用されていたが、GBIF では情報源が LepIndex なのに、収蔵資料 DB と同じ命名年 1877 が適用されていた。ヒョウマダラ *Timelaea albescens formosana* (Fruhstorfer) に、KONCHU では属名が微妙に異なる(*e* と *a* の違い) *Timelaea albescens formosana* Fruhstorfer, 1908 が適用されていたが、LepIndex では収蔵資料 DB と同じ *Timelaea* が適用され、種小名が異なる *Timelaea maculata formosana* Fruhstorfer, 1908 が有効学名であ

った。ハマタコモンマダラには 2 つの学名が入力されていた[*Tirumala hamata orientalis* (Semper) (採集地はフィリピン); *Tirumala hamata subnubila* (Talbot) (パプアニューギニア)]。LepIndex に *Tirumala* 属はなく、他のどの組み合わせでも検索不能であった。GBIF では *Tirumala hamata orientalis* (Semper, 1879) がシノニムで出て来て(情報源は National Checklist of Taiwan)、属名が異なる *Danaus hamata* MacLeay, 1827 が有効学名であった(LepIndex でも有効)。GBIF の分布域から、前述の 2 つの学名に、和名なし(旧ハマタコモンマダラ) *Danaus hamata* MacLeay, 1827 を適用した。

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui cardui* (Linnaeus, 1758) に、KONCHU では属名が異なる *Cynthia cardui* (Linnaeus, 1758) が適用されていた。LepIndex では *Cynthia cardui* Linnaeus, 1758 が適用されていたが、この学名は GBIF では Doubtful とされ、*Vanessa cardui* (Linnaeus, 1758) が承認されていた(情報源は Fauna Europaea - Lepidoptera)。GBIF の Nymphalidae 科に *Cynthia* 属は存在せず、*Cynthia cardui* Linnaeus, 1758 にも *Vanessa* Fabricius, 1807 が適用されていた。ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus, 1758) を有効な和名・学名と判断した。キオビコノハ *Yoma sabina vasuki* Doherty, 1886 (採集地はベトナム) の学名に、KONCHU では *Yoma sabina podium* Tsukada, 1985 が適用されていた。分布域は「Okinawa Honto Is., Ishigaki Is., Iriomote Is.; Taiwan, China (South), Philippines, Indochina」で、ベトナムを含まなかった。LepIndex では *Yoma sabina* Cramer, 1782 の infraspecific taxa に *podium* の亜種小名を持つものはなかった。GBIF で *Yoma sabina vasuki* Doherty, 1886 の分布域を見ると、台湾・ベトナム・ミャンマー・インドネシアに生息していた。試しに GBIF で *Yoma sabina podium* を検索してみると、*Yoma sabina podium* Tsukada, 1985 が出来た(情報源は National Checklist of Taiwan, 2019 年 9 月 5 日の時点で、分布域は台湾とフィリピン)。和名なし(旧キオビコノハ) *Yoma sabina vasuki* Doherty,

1886 を有効な和名・学名と結論付けた。

フトオアゲハ *Agehana maraho* (Shiraki & Esaki) は、GloBIS では属名と命名者名が異なる *Chilasa maraho* (Shiraki & Sonan, 1934) が有効学名であった。ピロードマネシアゲハ *Chilasa slateri* Niceville, 1894 は、GloBIS では命名者名と命名年が異なる *Chilasa slateri* (Hewitson, 1857) が有効学名であった。ベニモンクロタイマイ *Eurytides harmodius harmodius* (Doubleday) (*harmodius* の誤入力) は、GloBIS の *Eurytides* 属に *harmodius* の種小名はなかった。種小名に *harmodius* を入れて検索すると、属名が異なる *Papilio harmodius* Doubleday, 1846 がシノニムで出て来て、属名も種小名も異なる *Mimoides xeniades* (Hewitson, 1867) が有効学名であった。

タイワンタイマイには 2 つの学名が入力されていた [*Graphium cloanthus cloanthus* (Westwood, 1841) (採集地情報なし); *Graphium cloanthus kuge* (Fruhstorfer) (台湾)]。KONCHU では *Graphium cloanthus kuge* (Fruhstorfer, 1908) が適用されていたが、GloBIS では *Graphium cloanthus* Westwood, 1841 が出て来た。GBIF には、KONCHU と同じ *Graphium cloanthus kuge* (Fruhstorfer, 1908) が存在した (情報源は National Checklist of Taiwan)。情報なし資料に和名なし (旧タイワンタイマイ) *Graphium cloanthus* Westwood, 1841 を、台湾で採集した資料にタイワンタイマイ *Graphium cloanthus kuge* (Fruhstorfer, 1908) を適用した。ノミウスオナガタイマイ *Graphium nomius swinhoei* (Moore, 1878) は、GloBIS の *Graphium nomius* (Esper, 1798) に亜種はなく、他のどんな組み合わせでも検索できなかった。この時点で亜種から種へと昇格したと考えても良かったのだが、GBIF 検索で命名年がない *Graphium nomius swinhoei* (Moore) が有効学名として出て来た (情報源は GBIF Type Specimen Names)。マダラタイマイ *Graphium ramaceus* Corbet, 1941 に、GloBIS では命名者名と命名年が異なる *Graphium ramaceus* (Westwood, 1872) が適用されていた。

ミカドアゲハには 6 つの学名が入力されていた [*Graphium doson albidum* (Wileman, 1903) (採集地は 4 点が高知県、鹿児島県、愛媛県、八亀山=茨城県の山で別名が飛龍山、1 点は情報なし); *Graphium doson perillus* (Fruhstorfer, 1908) の 1 点 (沖縄県); *Graphium doson* (C. & R. Felder, 1864) (5 点がベトナム、1 点はタイ); *Graphium doson evemonides* (Honrath, 1884) の 1 点 (情報なし); *Graphium doson gyndes* (Fruhstorfer) の 3 点 (フィリピン); *Graphium doson postianum* (Fruhstorfer) の 2 点 (台湾)]。KONCHU では、ミカドアゲハ本土亜種 *Graphium doson albidum* (Wileman, 1903) とミカドアゲハ八重山亜種 *Graphium doson perillus* (Fruhstorfer, 1908) に分けられていた。GloBIS で *Graphium doson* を検索すると、*Graphium doson* (Felder & Felder, 1864) が出て来て、この種は亜種を含まなかった。シノニムにも該当する学名はなかったが、属名と種小名が異なる 4 つの原記載がシノニムになっていて (*Papilio jason evemonides* Honrath, 1884; *Papilio jason gyndes* Fruhstorfer, 1907; *Papilio jason perillus* Fruhstorfer, 1908; *Papilio jason postianus* Fruhstorfer, 1902)、亜種への分化を認めていなかった。GBIF では、これらのシノニム以外に *Graphium doson postianus* (Fruhstorfer, 1908) が存在した (情報源は National Checklist of Taiwan)。GBIF では、*Graphium doson* (Felder & Felder, 1864) の分布域が収蔵資料 DB の採集地を総て含むことから、6 つの学名にミカドアゲハ *Graphium doson* (Felder & Felder, 1864) の和名・学名を適用した。

アオスジアゲハには 5 つの学名が入力されていた [*Graphium sarpedon nippinum* (Fruhstorfer, 1903) (*nipponum* の誤入力。採集地は 1 点が山形県、1 点が奈良県、2 点が大阪府、6 点は日本とだけ入力); *Graphium sarpedon* (Linnaeus, 1758) (1 点が台湾、2 点がベトナム); *Graphium sarpedon sarpedon* (Linnaeus, 1758) の 2 点 (情報なし); *Graphium sarpedon sarpedon* Linnaeus (1 点がマレーシア、4 点がフィリピン); *Graphium sarpedon connectens* (Fruhstorfer) の 2 点 (台

湾]]。KONCHU ではアオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* (Fruhstorfer, 1903)が適用されていた。GloBIS や GBIF で、*Graphium sarpedon* (Linnaeus, 1758)は亜種を含まなかった(GBIF の分布域を見ると、収蔵資料 DB の採集地を総て含んでいた)。属名が異なる *Papilio sarpedon connectens* Fruhstorfer, 1906 がシノニムになっていたが、*nipponum* の亜種小名はなかった。5 つの学名の総てに、アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* (Linnaeus, 1758)を適用した。

アオソビキアゲハには 4 つの学名が入力されていた[*Lamproptera meges* (Zincken, 1831); *Lamproptera meges* Zincken, 1831 (Zincken の誤入力); *Lamproptera meges annamiticus* (Fruhstorfer, 1909); *Lamproptera meges virescens* (Butler, 1870)]。GloBIS や GBIF では *Lamproptera meges* (Zincken, 1831)が有効学名で、属名が異なる *Leptocircus meges annamiticus* Fruhstorfer, 1909 がシノニムで出て来た。収蔵資料 DB の学名で所在がわからないのは *Lamproptera meges virescens* (Butler, 1870)だけで、Google 検索すると、この亜種の common name に Green Dragontail と記載されていた(e.g., Thailand Nature Project, 2019)。Green Dragontail を GloBIS で検索すると、*Lamproptera meges* (Zincken, 1831)が出て来て、亜種は総て、この種に集約された。

ベニモンアゲハには 4 つの学名が入力されていた[*Pachliopta aristolochiae* (Fabricius, 1775)の 2 点(採集地はベトナム); *Pachliopta aristolochiae asteris* (Rothschild, 1908)の 1 点(情報なし); *Pachliopta aristolochiae brevicauda* (Staudinger)の 1 点(フィリピン); *Pachliopta aristolochiae interpositus* (Fruhstorfer, 1902) (1 点がマレーシア、1 点がタイ、1 点が台湾、2 点が日本)]。 *Pachliopta aristolochiae interpositus* (Fruhstorfer, 1902)は KONCHU と一致したが、分布域が「Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is.; Taiwan」になっていて、マレーシアやタイには生息しなかった。GloBIS では、*Pachliopta aristolochiae* (Fabricius, 1775)は亜種を含まず、収蔵資料 DB の亜種名はシノニム

にもなかった。GBIF では、亜種小名の語尾が男性形から女性形に変化し、命名年が異なる *Pachliopta aristolochiae interposita* (Fruhstorfer, 1904)が有効学名であった(情報源は National Checklist of Taiwan)。日本と台湾の資料にベニモンアゲハ *Pachliopta aristolochiae interposita* (Fruhstorfer, 1904)を、それ以外に和名なし(旧ベニモンアゲハ) *Pachliopta aristolochiae* (Fabricius, 1775)を適用した。

メスジロアゲハ *Papilio aegaeus ormenus* (Guérin) (*ormenulus* の誤入力)は、GloBIS や GBIF では命名者名が異なる *Papilio aegaeus ormenulus* Fruhstorfer, 1902 がシノニムとされ、*Papilio aegaeus* Donovan, 1805 が適用されていた。和名がない *Papilio alcmenor alcmenor* Westwood, 1841 は、GloBIS では命名者名と命名年が異なる *Papilio alcmenor* Felder & Felder, 1864 が有効学名であった。キアゲハ *Papilio machaon hippocrates* C. & R. Felder, 1864 は KONCHU と一致したが、GloBIS や GBIF では亜種から種へと昇格し、命名者名が異なる *Papilio hippocrates* Felder & Felder, 1864 がシノニムで、*Papilio machaon* Linnaeus, 1758 が有効学名であった。ルリモンアゲハには 2 つの学名が入力されていた(*Papilio paris* Linnaeus, 1828; *Papilio paris paris* Linnaeus, 1758)。命名年の 1828 は Linnaeus ではあり得ず、GloBIS では *Papilio paris* Linnaeus, 1758 が有効学名であった。

オナシアゲハには 4 つの学名が入力されていた[*Papilio demoleus libanius* Fruhstorfer, 1908 の 1 点(採集地は台湾); *Papilio demoleus libanius* (Fruhstorfer)の 4 点(フィリピン); *Papilio demoleus malayanus* Wallace, 1865 (1 点がフィリピン、1 点がインド、2 点がベトナム、1 点は情報なし); *Papilio demoleus malayanus* (Wallace)の 1 点(タイ)]。KONCHU では、属名が異なる *Princeps demoleus libanius* (Fruhstorfer, 1908)が適用され、分布域は「Iriomote Is., Yonaguni Is.; Taiwan, Philippines」になっていた。GloBIS に *Princeps* 属は存在せず、亜種を持たない *Papilio demoleus* Linnaeus,

1758 が有効学名であったが、GBIF では *Papilio demoleus malayanus* Wallace & A. R. も存在し(A. R. の意味は不明)、分布域はインド・タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシアであった(情報源は GBIF Type Specimen Names)。この亜種はフィリピンに生息しないので、フィリピンから採集した 1 点は、収蔵資料 DB の *Papilio demoleus malayanus* Wallace, 1865 ではないと判断した。台湾とフィリピンで採集した資料にオナシアゲハ *Papilio demoleus* Linnaeus, 1758 を、それ以外には和名なし(旧オナシアゲハ) *Papilio demoleus malayanus* Wallace & A. R. を適用した。

シロオビアゲハには 5 つの学名が入力されていた [*Papilio polytes polytes* Linnaeus, 1758 (採集地は 2 点が日本、1 点は情報なし); *Papilio polytes pasikrates* (Fruhstorfer) の 2 点(台湾); *Papilio polytes romulus* (Cramer) の 1 点(タイ); *Papilio polytes romulus* (Cramer, 1775) (1 点がタイ、1 点は情報なし); *Papilio polytes romulus* Cramer, 1775 の 1 点(Cramer の誤入力。情報なし)]。KONCHU では、シロオビアゲハ *Papilio polytes polytes* Linnaeus, 1758 が適用されていて、分布域は「Amami Oshima Is., Tokunoshima Is., Okinawa Honto Is., Miyako Is., Ishigaki Is., Iriomote Is., Yonaguni Is.; Taiwan, China」であった。GloBIS では、*Papilio polytes pasikrates* Fruhstorfer, 1908 と *Papilio romulus* Cramer, [1775] がシノニムで(GBIF では 1775)、*Papilio polytes* Linnaeus, 1758 が有効学名であった。GBIF の分布域が日本列島から東南アジアを経てインドまでなので、前述の 5 つの学名の総てに、シロオビアゲハ *Papilio polytes* Linnaeus, 1758 を適用した。

ウスバアゲハ *Parnassius citrinarius* Motschulsky, 1866 は、どの DB にも和名や学名がなく、Google 検索で和名が異なるウスバシロチョウ *Parnassius citrinarius* Motschulsky, 1866 が見つかった(e.g., Wikipedia)。ウスバシロチョウを KONCHU で検索すると、種小名が異なる *Parnassius glacialis* Butler, 1866 が出て来た(GloBIS や GBIF でも有効)。デルフィウ

スウスバアゲハ *Parnassius delphius* (Eversmann, 1998) は、この命名者名で 1998 の命名年はありません、GloBIS では命名年が異なる *Parnassius delphius* (Eversmann, 1843) が有効学名であった。キイロウスバアゲハ *Parnassius eversmanni* Menetries, 1850 に、KONCHU ではウスバキチョウ *Parnassius eversmanni daisetsuzanus* Matsumura, 1926 が適用されていたが、GloBIS や GBIF になく、収蔵資料 DB とは命名年が異なる *Parnassius eversmanni* Ménétériés, 1855 が有効学名であった。ヒメウスバアゲハ *Parnassius hoenei* Schweitzer, 1912 に、KONCHU では和名が異なり、種から亜種に格下げされたヒメウスバシロチョウ *Parnassius stubbendorfii hoenei* Schweitzer, 1912 が適用されていたが、この学名は GloBIS や GBIF ではシノニムで、*Parnassius stubbendorfii* Ménétériés, 1849 が有効学名であった。ノルトマンウスバアゲハ *Parnassius nordmanni* Menetries, 1850 に、KONCHU では命名者名が後で判明したことを表す角括弧が適用されていた(*Parnassius nordmanni* [Ménétériés], 1850)。GBIF では *Parnassius nordmanni* (Ménétériés) 1850 という見慣れない書き方で、命名規約から判断すると、(Ménétériés) は[Ménétériés]、とするのが正しい。

ホソオアゲハ *Sericinus montela* Koreanus Fixsen, 1887 (*koreanus* の誤入力)に、KONCHU では和名が異なり、亜種から種へと格上げされた、ホソオアゲハ *Sericinus montela* (Bremer & Grey, 1852) が適用されていたが、GloBIS や GBIF では、命名者名が異なる *Sericinus montela* Gray, 1852 が適用されていた(収蔵資料 DB とは種小名が異なる変種 *Sericinus telamon* var. *koreana* Fixsen, 1887 がシノニム)。キシタアゲハには 2 つの学名が入力されていた [*Troides aeacus* (Felder & Felder, 1860); *Troides aeacus formosanus* Rothschild, 1899 (*Troides* の誤入力)]。GloBIS では *Troides aeacus* (Felder & Felder, 1860) の immediate children に *formosanus* の亜種小名は存在しなかったが、GBIF では *Troides aeacus formosanus* (Rothschild,

1899)が存在した(情報源は National Checklist of Taiwan)。アカエリトリバネアゲハには3つの学名が入力されていた[*Trogonoptera brookiana* (Wallace, 1856); *Trogonoptera brookiana* (Wallace, 1857); *Trogonoptera brookiana albescens* (Rothschild)]。GloBIS や GBIF では、属名が異なり、種小名が語尾変化した *Troides brookianus albescens* Rothschild, 1895 がシノニムで、命名年が異なる *Trogonoptera brookiana* (Wallace, 1855)が有効学名であった。和名が異なるのに属名と種小名が同じで、命名者名が異なる学名が入力されていた[パラワンアカエリトリバネアゲハ *Trogonoptera trojana* (Honrath, 1886); オオアカエリトリバネアゲハ *Trogonoptera trojana* (Staudinger)]。GloBIS や GBIF では、*Trogonoptera trojana* (Honrath, 1886)が有効学名であった(属名が異なる *Ornithoptera trojana* Staudinger, 1889 がシノニム)。

台湾シロチョウには2つの学名[*Appias lyncida* (Cramer, 1777)の1点(採集地情報なし); *Appias lyncida vasava* Fruhstorfer, 1910 (1点がマレーシア、3点がベトナム、1点は情報なし)]が、リンクダトガリシロチョウ(台湾シロチョウ)には1つの学名[*Appias lyncida formosana* (Wallace)の1点(台湾)]が、リンクダトガリシロチョウには2つの学名[*Appias lyncida eleonora* (Boisduval)の1点(タイ); *Appias lyncida enaretina* (Fruhstorfer)の5点(フィリピン)]が入力されていた。GloBIS では、命名年が異なる *Appias lyncida* (Cramer, [1779])は亜種を持たなかったが、GBIF では *Appias lyncida* (Boisduval, 1836)がシノニムで(情報源は National Checklist of Taiwan)、*Appias lyncida* (Cramer, 1779)の direct children に *Appias lyncida vasava* Fruhstorfer, 1910 が存在した(情報源は GBIF Type Specimen Names)。この種の分布域はマレーシアだけなので、マレーシアから採集された1点に *Appias lyncida vasava* Fruhstorfer, 1910 を適用し、それ以外の12点に *Appias lyncida* (Cramer, 1779)を適用した。

ベニシロチョウには4つの学名が入力されていた

[*Appias nero* (Fabricius, 1793); *Appias nero domitia* (C. & R. Felder); *Appias nero palawanica* (Staudinger); *Appias nero figulina* (Butler, 1867)]。KONCHU ではベニシロチョウ *Appias nero domitia* (C. & R. Felder, 1862)が適用されていたが、GloBIS では *Appias nero* (Fabricius, 1793)に亜種はなく、*Pieris domitia* Felder & Felder, 1862 がシノニムになっていた。GBIF でも *Appias nero* (Fabricius, 1793)が有効学名で、*Appias nero domitia* (C. Felder & R. Felder, 1862)]がシノニムであった(情報源は National Checklist of Taiwan)。この種の direct children には *Appias nero figulina* Butler が存在した(情報源は GBIF Type Specimen Names)。*Appias nero figulina* (Butler, 1867)に和名なし(旧ベニシロチョウ) *Appias nero figulina* Butler を適用し、それ以外にベニシロチョウ *Appias nero* (Fabricius, 1793)を適用した。

オルフェルナトガリシロチョウには3つの学名が入力されていた[*Appias olferna olferna* Swinhoe, 1890; *Appias olferna olferna* (Swinhoe); *Appias olferna peducaea* (Fruhstorfer)]。 *Appias olferna* Swinhoe, 1890 は、GloBIS では亜種を含まなかったが、GBIF では *Appias olferna peducaea* Fruhstorfer, 1910 が存在した(情報源は National Checklist of Taiwan)。クモガタシロチョウ *Appias pandione lagela* (Moore, 1879)は、GloBIS では *Appias pandione* (Geyer, [1832])は亜種を含まず、他のどの組み合わせでも検索できなかった。GBIF では、命名年が異なる *Appias pandione lagela* (Moore, 1878)がシノニムで出て来て、亜種から種へと昇格し、命名年が元に戻った *Appias lagela* (Moore, 1879)が有効学名であった(情報源は GBIF Type Specimen Names)。ナミエシロチョウ *Appias paulina minato* (Fruhstorfer, 1899)に、KONCHU では *Appias paulina minato* (Fruhstorfer, [1899])が適用されていた。GloBIS では、属名が異なる *Catophaga paulina minato* Fruhstorfer, 1899 がシノニムで、*Appias paulina* (Cramer, [1777])が適用されていた。GBIF では命名年が異なる *Appias paulina minato* (Fruhstorfer, 1898)がシノニムで、

Appias paulina (Cramer, 1777)が有効学名であった。

学名が同じで、和名が異なる亜種が入力されていた[オオキシタシロチョウ *Catopsilia scylla cornelia* (Fabricius) (採集地は1点がタイ、7点がフィリピン); キシタウスキシロチョウ *Catopsilia scylla cornelia* (Fabricius, 1787)の8点(ベトナム)]。GloBIS では *Catopsilia scylla* (Linnaeus, 1763)に亜種はなかったが、GBIF では収蔵資料 DB と同じ *Catopsilia scylla cornelia* (Fabricius, 1787)が有効学名であった(情報源は National Checklist of Taiwan)。この亜種の分布域はタイ・マレーシア・インドネシアで、フィリピンやベトナムにはプロットがなかった。採集地がフィリピンの資料7点に *Catopsilia scylla* (Linnaeus, 1763)を、採集地がタイの資料1点に *Catopsilia scylla cornelia* (Fabricius, 1787)を適用した。問題は採集地がベトナムの資料8点で、どちらの分布域にもプロットがないことから学名不明と判断し、*Catopsilia* sp.とした。

フトヘリキシタシロチョウ *Cepora iudith malaya* (Fruhstorfer, 1899)は、GloBIS の *Cepora iudith* (Fabricius, 1787)に亜種はなかったが、GBIF では命名年がない *Cepora iudith malaya* Fruhstorfer が有効学名であった(情報源は GBIF Type Specimen Names)。キシタシロチョウ *Cepora aspasia olgina* (Stausinger)は、GloBIS では属名が異なる *Pieris aspasia olgina* Staudinger, 1889 がシノニムで、*Cepora aspasia* (Stoll, [1790])が適用されていた[GBIF では *Cepora aspasia* (Stoll, 1790)が有効学名]。ウスムラサキシロチョウ *Cepora nadina eunama* (Fruhstorfer)、及び和名がない *Cepora nandina eunama* (Fruhstorfer, 1908) (*nadina* の誤入力)は、GloBIS や GBIF では属名・種小名・命名年が異なる *Huphina nama eunama* Fruhstorfer, 1903 がシノニムで、*Cepora nadina* (Lucas, 1852)が有効学名であった[GBIF では命名年だけ異なる *Cepora nadina eunama* (Fruhstorfer, 1903)もシノニム: 情報源は National Checklist of Taiwan]。タイワンスジグロチョウ *Cepora nerissa cibyra* (Fruhstorfer) (*cibyra* の誤入力)とネリッ

サマルバネシロチョウ [*Cepora nerissa dapha* (Moore, 1879); *Cepora nerissa dapha* (Moore)]は、GloBIS の *Cepora nerissa* (Fabricius, 1775)に亜種はなかったが、GBIF では *Cepora nerissa cibyra* (Fruhstorfer, 1910)が存在した(情報源は National Checklist of Taiwan)。GBIF では、亜種から種へと昇格した *Cepora dapha* (Moore)も有効学名であったが(情報源は GBIF Type Specimen Names)、分布域が不明なので適用不能と判断した。

モンキチョウには2つの学名が入力されていた [*Colias erate formosana* (Shirozu) (採集地は台湾); *Colias erate poliographus* Motschulsky, 1860 (日本)]。KONCHU ではモンキチョウ *Colias erate poliographus* Motschulsky, 1860 が出て来た。GloBIS の *Colias erate* (Esper, [1805])に亜種はなかったが[GBIF では *Colias erate* (Esper, 1805)が有効学名]、GBIF では *Colias erate formosana* Shirôz, 1955 が存在した。台湾で採集した亜種に和名なし(旧モンキチョウ) *Colias erate formosana* Shirôz, 1955 を、日本で採集した亜種にモンキチョウ *Colias erate* (Esper, 1805)を適用した。

ベニモンシロチョウには3つの学名が入力されていた [*Delias hyparete indica* (Wallace, 1867) (採集地はベトナム); *Delias hyparete indica* (Wallace) (タイ); *Delias hyparete metarete* Butler, 1879 (情報なし)]。他に、和名がない2亜種が存在した [*Delias hyparete metarete* Butler, 1879 (情報なし); *Delias hyparete luzonensis* C. & R. Felder, 1862 (インドネシア)]。GloBIS では *Delias hyparete* (Linnaeus, 1758)に亜種はなかったが、GBIF では命名年がない *Delias hyparete metarete* Butler (情報源は GBIF Type Specimen Names)、及び *Delias hyparete luzonensis* C. Felder & R. Felder, 1862 (情報源は National Checklist of Taiwan)が存在した。後者の分布域は台湾とフィリピンで、インドネシアには生息しなかった。ベトナム・タイ・インドネシアで採集した資料に *Delias hyparete* (Linnaeus, 1758)を、それ以外に *Delias hyparete metarete* Butler を適用した。

アリタキチョウ(エサキキチョウ) *Eurema alitha*

esakii (Shirozu) とアリタキチョウ *Eurema alitha jalendra* (Fruhstorfer) は、GloBIS の *Eurema alitha* (Felder & Felder, 1862) に亜種はなかったが、GBIF では *Eurema alitha esakii* Shirôzu, 1953 が存在した(情報源は National Checklist of Taiwan)。ツマグロキチョウ *Eurema laeta betheseda* (Janson, 1878) (*betheseba* の誤入力) は KONCHU と一致したが、GloBIS や GBIF では *Eurema laeta* (Boisduval, 1836) が有効学名であった。キタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza, 1869) は GloBIS に存在しなかったが、GBIF では命名者名と命名年がない *Eurema mandarina* が有効学名であった(情報源は National Checklist of Taiwan)。ヤマキチョウ *Gonepteryx rhamni maxima* Butler, 1885 は KONCHU と一致したが、GloBIS や GBIF では *Gonepteryx maxima* Butler, 1885 が有効学名であった。

メスシロキチョウ(メスジロキチョウの誤入力)には 3 つの学名が入力されていた[*Ixias pyrene verna* (Druce, 1874) の 1 点(採集地はタイ); *Ixias pyrene verna* (Druce) の 1 点(タイ); *Ixias pyrene verna* H. Druce, 1874 の 8 点(ベトナム)]。他に、和名がない *Ixias pyrene insignis* Butler, 1879 があり(情報なし)、KONCHU と一致した。GloBIS の *Ixias pyrene* (Linnaeus, 1764) に亜種はなかったが、GBIF では命名年がない *Ixias pyrene verna* Druce (情報源は GBIF Type Specimen Names) と、*Ixias pyrene insignis* Butler, 1879 (分布域は日本と台湾。情報源は National Checklist of Taiwan) が存在した。タイとベトナムで採集した資料に、和名なし(旧メスジロキチョウ) *Ixias pyrene verna* Druce を適用し、それ以外にメスジロキチョウ *Ixias pyrene insignis* Butler, 1879 を適用した。

7 採集地

採集地詳細に、大字でなく、字で入力されているケースが多く、地名の特定は困難を極めた。明らかな採集地の誤入力が多かった[e.g., 珊瑚海ニューカレドニア沖(ニューカレドニア)が日本で、弘前市(青

森県)が岩手県で、入間市(埼玉県)が神奈川県で、大石(新潟県岩船郡関川村)が山形県西置賜郡小国町で、江の島(神奈川県藤沢市)が茅ヶ崎市で、笹部(兵庫県加西市)が大阪府豊能郡能勢町で、北海道川上郡標茶町の虹別が紅別で、青森県の上北郡七戸町が七戸市で、千葉県の市川市行徳地区が行徳市で、静岡県榛原郡吉田町が静岡県富士吉田市で(富士吉田市は山梨県)。山形県では、鶴間池(酒田市草津湯ノ台)が飽海郡遊佐町鳥海山で、大井沢(西村山郡西川町)が西村山郡朝日町で、曲淵(西村山郡朝日町立木)が西村山郡西川町大井沢や山形市大井沢で(山形市に大井沢は存在しない)、松岡平放牧場(村山市山の内)が北村山郡大石田町で、白鷹山高原放牧場(南陽市小滝)が西置賜郡白鷹町で、西置賜郡飯豊町添川の眺山牧場が長井市の目非山牧場で]。

タヌキ(頭蓋骨) *Nyctereutes procyonoides* (Gray, 1834) の 6 点中 1 点は採集地が山形市所沢になっていたが、山形市に所沢の地名は存在せず、埼玉県の所沢かと思われた。標本に当たって調べたところ、当時の担当者が作成したラベルには山形市所沢と記述されていたが、頭蓋骨に山形県南村山郡堀田村成沢と書いてあった(現在の山形市蔵王成沢)。クジャクチョウの採集地である谷川岳は山形県に存在せず、東北のリトル谷川岳の愛称で親しまれている、禿岳(かむろだけ)=小鎚山(こかぶらやま)と判明した(同じ資料の YAMA3Le012422 が「山形県立博物館収蔵資料目録 動物資料目録 10. 昆虫 V 日本産鱗翅目」では、群馬県谷川岳で記載されている)。

平岩大綱は隣接する平岩集落・大綱(おあみ)集落で(綱は読み取り間違い)、新潟県糸魚川市大所平岩・長野県北安曇郡小谷村(おたりむら)北小谷大綱と判明した。広島県加計町津浪は、広島県に加計町が存在せず、広島県山県郡安芸太田町にある、加計(かけ)と津浪(つなみ)という隣同士の地区であった。和歌山県と入力されている大台ヶ原は、三重県と奈良県にまたがる山だが、登山ルートを考慮すると奈良県で

あった。群馬県と入力されている追分ヶ原は、鱗翅類の採集地として有名な、長野県北佐久郡軽井沢町追分に広がる草原の名称であった(岸田, 2002)。

北海道の丸瀬市町は丸瀬布町(まるせつぷちょう)の読み取り間違いと判断し、紋別郡遠軽町に変更した(丸瀬布町は 2005 年に遠軽町に編入)。岐阜県に不追郡岡ヶ原町は存在せず、不破郡関ヶ原町の読み取り間違いと判断した。岐阜県横倉村、及び揖斐村を、現在の揖斐郡揖斐川町と判断した(横倉村・揖斐村は元々ない。横蔵村は 1960 年に谷汲村に編入)。川路町は静岡県になく、天竜川沿いの上流に当たることから、長野県下伊那郡川路町と判断した(1961 年の市町村合併で飯田市に編入。現在の長野県飯田市川路)。

韓国の七発島は海鳥の繁殖地として有名で、全羅南道新安郡(Sinan County, South Jeolla Province)にあることは分かったが、どこを探しても七発島の読みが出て来なかった。Wikipedia の大韓民国指定天然記念物に「新安七発島の海鳥の繁殖地」とあり、これのハングル表記「신안 칠발도 바닷새류 번식지」を英語翻訳すると「Shinan Chilbaldo Seabird Breeding Ground」が出て来た(七発島 Chilbaldo Island)。

インドセイロン島トリンコマリは明らかな誤りで、スリランカ東部州トリンコマリに変更した。Indonesia コタキナバルをマレーシア・サバ州コタキナバルに変更した。国名に Sula、採集地詳細に Maros と入力されていた国名は明らかな間違いで、Maros, South Sulawesi, Indonesia であった。Gruzia の Kavkasus と入力されている国名をジョージア Georgia に変更した(Kavkasus は Kaukasus の誤入力だが、これはドイツ語なので、コーカサス Caucasus と入力)。インドのアッサム州カシー山脈をメガラヤ州に変更し、アッサム州ナガ山地をナガランド州に変更した。インドの Parang pass N. India をヒマーチャル・プラデーシュ州 Himachal Pradesh ダー・ダム・バチェン Dhar Dum Bachen パラン・ラ Parang La に変更した(La = 峠 Pass)。採集年月日が 1980 年 6 月 31 日で入力)。インドの

Tagulan-pass と Tagulang-La は検索不能だったが、試しにタグラン・ラと入力してみると、綴りが微妙に異なる Taglang La が出てきた(ジャンムー・カシミール州 Jammu and Kashmir ラダック Ladakh)。

パキスタンの Hojamahomet Kusb は検索不能だが、「Khoja Muhammad」Kush で検索すると、ヒンドゥークシュ山脈 Hindu Kush に Khoja Muhammad Range があり、アフガニスタンの Zebak 西側、Faizabad 南側に位置する山脈であることが判明した(Chwaściński, 1966: Google の地図には出て来ない)。

8 終わりに

複数の DB を基に種の和名・学名をチェックする過程で、既存の登録番号を廃止して、新規の登録番号(未使用の登録番号の中で最も若い番号)を割り当てるケースが 2 点あった(網レベルでの変更)。

(1-1) 新登録番号(廃止): YAMA3Ga007592
軟体動物門 Mollusca / 腹足綱 Gastropoda / 新腹足目 Neogastropoda / イモガイ科 Conidae / キュウシュウナミノコ(学名入力なし)

(1-2) 新登録番号(新規): YAMA3Bi001707
軟体動物門 Mollusca / 二枚貝綱 Bivalvia / Cardiida 目 / フジノハナガイ科 Donacidae / 和名なし(旧キュウシュウナミノコ) *Donax kiusiuensis* Pilsbry, 1901

(2-1) 新登録番号(廃止): YAMA3Mo000153
軟体動物門 Mollusca / 多板綱 Polyplacophora / 背楯目 Notaspidea / カメノコフシエラガイ科 Pleurobranchidae / ホオヅキフシエラガイ *Berthellina citrina* (Ruppel & Leuckart)

(2-2) 新登録番号(新規): YAMA3Ga007903
軟体動物門 Mollusca / 腹足綱 Gastropoda / Pleurobranchida 目 / カメノコフシエラガイ科 Pleurobranchidae / ホウズキフシエラガイ *Berthellina citrina* (Rüppel & Leuckart, 1828)

山形県立博物館は、2014 年度に 15,000 点、2018 年度に 15,000 点、合計 30,000 点の動物資料を S-Net

に登録した(羽角・本間, 2019)。未登録資料は、11,000 点強である。2019 年度は、この中から 10,000 点を登録し、今回で S-Net への動物資料の登録は完了する。

ここ数年で、学名の新科や新属、新種の記載が増加し、これまで亜種に分けていたものを種に集約する傾向が強まっている。少なくとも私の担当分の 26,000 点強は、最新の学名に更新することが出来たのではないかと考えている。2020 年 3 月以降は 41,000 点強の動物資料 DB を最新の情報に更新する作業に取り掛かり、それが終わってから、動物標本

引用文献

- Aqilah AAR, Maryati M (2019) Checklist of butterflies (Lepidoptera: Papilionoidea) of Sg. Bantang, Labis Forest Reserve, Johor. IOP Conf Ser: Earth Environ Sci 269: 012042
- Atlas of Living Australia (2019) *Hypolimnas bolina nerina* (Fabricius, 1775). <https://bie.ala.org.au/species/urn:lsid:biodiversity.org.au:afd:taxon:daa630c4-ca06-4d56-80a8-9797c7ebb158> (accessed on 2 Aug 2019)
- 微小貝データベース (2019a) http://bigai.world.coocan.jp/pic_book/data12/r001130.html (accessed on 14 Apr 2019)
- 微小貝データベース (2019b) http://bigai.world.coocan.jp/pic_book/data19/r001801.html (accessed on 19 Apr 2019)
- Butterflies of America (2019) *Heliconius melpomene martinae* Cast & Le Crom, 2012. https://butterfliesofamerica.com/L/heliconius_melpomene_martinae.htm (accessed on 1 Aug 2019)
- Chwaściński B (1966) The Exploration of the Hindu Kush. *Alpine Journal* 71(313): 199–214 (+7 plates)
- GBIF (2019) *Eurytides harmodius* Doubleday, 1846. <https://www.gbif.org/en/species/4694177> (accessed on 24 Jul 2019)
- 羽角正人・本間正明 (2019) 山形県立博物館動物資料データベースと S-Net/GBIF への登録。山形県立博物館研究報告 37: 7–56
- 肥後俊一・後藤芳央 (1993) 日本及び周辺地域産軟体動物総目録。エル貝類出版局, 大阪
- Iowa State University (2019) Species *Nymphalis l-album* - Compton Tortoiseshell - Hodges#4430. <https://bugguide.net/node/view/12877> (accessed on 24 Aug 2019)
- 岸田泰則 (2002) 長野県軽井沢町追分の鱗翅類の変遷。やどりが 195: 9–12
- 岸田泰則(編) (2011) 日本産蛾類標準図鑑 I. 学研教育出版, 東京

の総てのラベルを刷新する予定である。

謝辞

S-Net と GBIF の正確な用語法に関してご指摘いただいた国立科学博物館の細矢剛博士に感謝の意を表す。山形県内の地名情報をお寄せいただいた本館の本間正明学芸員にお礼申し上げる。質問に対する回答をいただいた GBIF 事務局の Marie Grosjean, Andrea Hahn, Jan Legind の各氏に感謝申し上げます。

Kunte K, Sondhi S, Roy P (Chief Editors) (2019) *Butterflies of India, Ver. 2.63*. Indian Foundation for Butterflies. <https://www.ifoundbutterflies.org/sp/986/Caleta-roxus> (accessed on 19 Jun 2019)

MacNeil FS (1967) Cenozoic pectinids of Alaska, Iceland and other northern regions. *Geological Survey Professional Paper* 553, pp. 1–57 (+25 figure captions and plates). United States Government Printing Office, Washington, USA

ManonGros (2019) *Gonepteryx amintha* subsp. *formosana* (Fruhstorfer, 1908) is not a homotypic synonym of *Hebomoia glaucippe* subsp. *formosana* Fruhstorfer, 1908 #2271. <https://github.com/gbif/portal-feedback/issues/2271> (accessed on 31 Oct 2019)

松田真平 (2009) ヤマトスジグロシロチョウとエゾスジグロシロチョウの学名に関する問題。やどりが 219: 26–41

奥谷喬司(編著) (2000) 日本近海産貝類図鑑。東海大学出版会, 東京

佐々木猛智 (2019) 軟体動物和名学名一覧表。 <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/hp/sasaki/02-malacology/01-list/wamei-gakumei.htm> (accessed on 28 Apr 2019)

Savelle M (2019) *Mycalesis* Hübner, 1818. <http://ftp.funet.fi/pub/sci/bio/life/insecta/lepidoptera/ditrysia/papilionoidea/nymphalidae/satyrinae/mycalesis/> (accessed on 22 Aug 2019)

Špatenka K, Arita Y (1992) New eastern-palaearctic clear-wing moths (Sesiidae, Lepidoptera). *Tyô to Ga* 43: 95–106

台湾生物多様性ネットワーク (2019) 雙標紫斑蝶 *Euploea sylvester*. <https://www.tbn.org.tw/taxa/1024318> (accessed on 23 Jul 2019)

Thailand Nature Project (2019) *Lamproptera meges virescens* (Butler, 1870). <https://www.thailandnatureproject.com/lamproptera-meges-virescens.html> (accessed on 20 Sep 2019)